

---

みやぎの志教育推進

# 授業や活動のヒント集1

---



志

に高める



夢

をはぐくみ

平成23年5月  
宮城県教育委員会

## はじめに

平成23年3月11日の東日本大震災により、本県は人的にも物的にも極めて甚大な被害を受けました。多くの尊い命が奪われ、各地域の学校が浸水や倒壊で校舎が使えないほど深刻な被害を受けましたが、その一方で多くの学校が地域の復興拠点として極めて重要な役割を果たしました。

避難所となった学校では、小・中・高校生が自ら進んで物資搬入や、生活用水の汲み出しを手伝うなど、避難生活を送る人々のために貢献する姿が目立ちました。身を呈して災害復興にあたる方々の姿や避難所の教師の姿、地域の自治を懸命に守る方々の姿などにより、これまでも子どもたちにはぐくまれてきた、人としてよりよく生きたいとの思いや願いが引き出され、今すべきことに取り組みずにはいられない前向きな姿勢となって表れたように思います。

はからずも本県では、昨年3月に策定した宮城県教育振興基本計画における重点的取組の一つとして「志教育」を掲げ、「小・中・高等学校の全時期を通じて、人や社会とかかわる中で社会性や勤労観を養い、集団や社会の中で果たすべき自己の役割を考えさせながら、将来の社会人としてのよりよい生き方を主体的に求めさせていく教育」を全県的に推進していくことといたしました。子どもたちには、すべての学校段階で、自己と社会のかかわりを意識させ、社会の中で自分ができることや果たすべき役割は何か、そしてその実現のためにはどのような取組が必要かなどについてより深く考えさせ、社会的存在としての人間の生き方を探求する姿勢を育みたいと考えております。

「志教育」の今後の展開は、本県復興の歩みと軌を一にすることになります。まさに今こそ、本県の復興と将来の発展を支えるみやぎの子どもたちのために、これまで培われてきたみやぎの教育の底力を信じ、県内全ての教師が一丸となって「志教育」の種子に光を与え、水を注ぎ、ひとつひとつの取組を着実に進めていくときであると考えます。

本冊子「みやぎの志教育推進 授業や活動のヒント集」は、今後、各学校が、校長先生方のリーダーシップの下、それぞれの実情に応じて自校ならではの「志教育」をより確かに推進していくことを願い作成しました。今回の震災を経て、各学校ではその地域ならではの「志教育」が展開され、実践の積み重ねがなされていくものと思います。みやぎの子どもたちが、不撓不屈の精神をもち、本県の次代を築く未来の担い手として大きく成長していくことを願い、各学校において自信と誇りをもって「志教育」に取り組まれるよう期待しております。

平成23年5月

宮城県教育委員会教育長  
小林 伸 一

# 目次

1	<u>「授業や活動のヒント集1」について</u> .....	1
2	<u>小学校の参考事例</u>	
	○ 第2学年 .....	3
	・年間指導計画の例	
	・参考事例	
	○ 第4学年 .....	12
	・年間指導計画の例	
	・参考事例	
	○ 第6学年 .....	23
	・年間指導計画の例	
	・参考事例	
3	<u>中学校の参考事例</u>	
	○ 第2学年 .....	38
	・年間指導計画の例	
	・参考事例	
4	<u>高等学校の参考事例</u>	
	○ 第2学年 .....	49
	・年間指導計画の例	
	・参考事例	
5	<u>特別支援学校の参考事例</u>	
	○ 小学部 .....	58
	・参考事例	
	○ 中学部 .....	59
	・参考事例	
	○ 高等部 .....	60
	・参考事例	

## 参考指導事例集の活用

○ 本冊子は、今後各学校が、教育活動全体を通じた「志教育」の推進の際に参考として活用するために作成したものです。各教科，道徳，外国語活動，総合的な学習の時間及び特別活動等の取組を『かかわる』，『もとめる』，『はたす』の視点で見直し，指導計画の作成や実践を試みる際，参考となる事例を集めています。これらすべてを各学校が実践しなければならないというものではありません。本冊子を活用し，それぞれの実情に応じた自校ならではの取組を積極的に進めていきましょう。

## 各学校での活用にあたって

## 〈 ヒント集の見方 〉

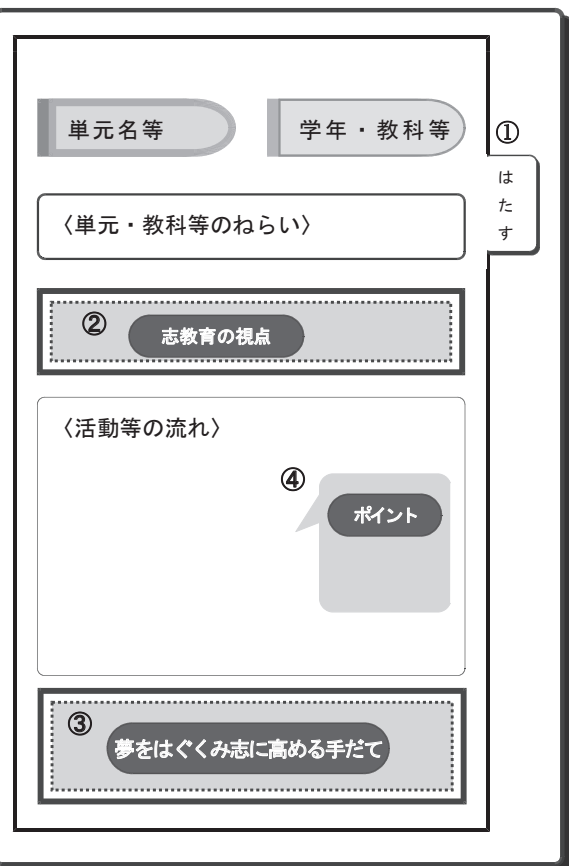
右図は，ヒント集の基本フォームです。

①は，「志教育」の3つの視点のうち，どの視点で取り上げたかを示しています。

②は，この授業を「志教育」の視点でとらえたときの指導のねらいを示しています。

③は，「志教育」の指導のねらいを達成するための手だてを示しています。

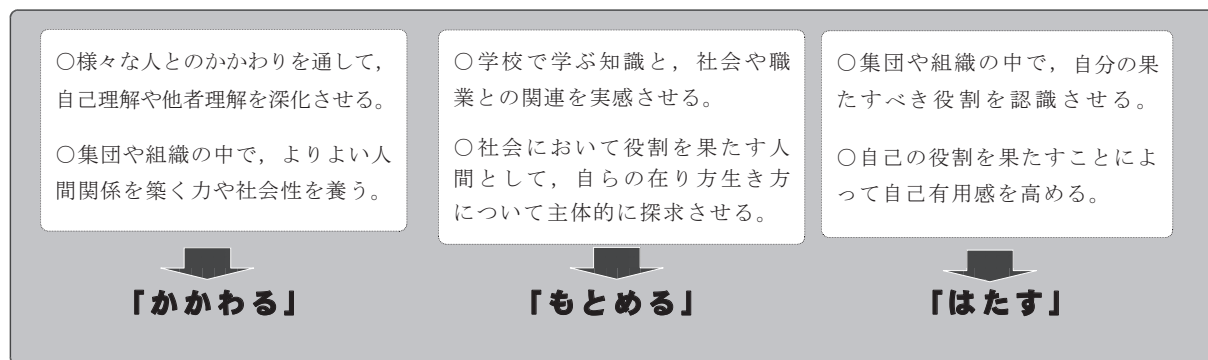
④は，「志教育」として学習活動を展開する際のポイントを示しています。



学校全体で事例の効果的な活用について話し合う場を設けるなど，「志教育」の推進について共通理解を図りましょう。

## 今後の取組

本冊子を活用し、自校の指導計画を作成してみましょう。その際は、「志教育」の3つの視点を確認しながら進めることが大切です。



〈「志教育」3つの視点〉

- 指導計画の作成にあたっては、学習活動や学校行事、清掃活動やあいさつ運動など、今取り組んでいる活動の中から、「志教育」として実践することができるような内容を学年部や教科部などで話し合ひましょう。

また、実践を試みながら、年間指導計画に朱書きを加えるなどして、「志教育」の年間指導計画の自校化を進めるなど、取り組みやすく実効的な方法を工夫しましょう。

- 各学校では、実践事例を累積していくなど、自校化の観点を意識しながら取組を進めましょう。

### 「志教育」担当教諭の役割は

「志教育」担当教諭の役割は、以下のようなものが考えられます。

- ・ 自校の志教育の在り方についての共通理解に関すること
- ・ 志教育の指導計画の作成に関すること
- ・ 志教育推進のため、各教科、校務分掌等の担当者や各学年との連携に関すること
- ・ 家庭や地域への自校の取組の発信や連携に関すること
- ・ 他校種の学校との連携に関すること
- ・ 志教育推進に係る外部人材や関係機関との渉外に関すること 等

2

## 小学校の参考事例

2-1

小学校第2学年

# 指導計画例（小2）

学 期	各 教 科							道徳・特別活動		その他の活動			
	国語	算数	生活	音楽	図画工作	体育	道徳	特別活動					
1										<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">ちびっこグリーン隊 (清掃活動)</div> <p>○清掃の仕方を理解し、進んで取り組むことができる。 ○自分の役割を行うこと、友達と協力することの大切さを考えることができる。 ◆清掃活動の取組の中で、自分や友達のおさきに気付かせる。 ◆学級の係活動、清掃活動等で役割を自覚させる。 【かかわる】【はたす】</p>			
2	<p>「話したいな、とくいな」と</p> <p>○自分の得意なことが聞いている人に伝わるように順序よく話すことができる。 ○友達との得意なことを興味をもって聞き、感想を話したり質問をしたりすることができる。 ◆得意なことを話す活動を通して、それぞれのよさに気付く、自分の得意なことをさらに伸ばし、これからの生活に生かそうとする気持ちをはぐくむ。 【かかわる】【もとめる】</p>		<p>「ありがたうをどけよう」</p> <p>○自分の成長に関心を持ち、振り返ることを通して、自分が成長してきたことや、成長の背景には多くの人の支えがあったことに気付くとともに、成長を支えてくれた人に感謝し、未来に向かって意欲的に生活できる。 ◆地域の人たちが自己の成長にかかわっていることに気付かせる。 【かかわる】</p>				<p>「はたらくってたのしいなーのぶくろはポスターがかりー」</p> <p>○働くことのよさを感じ、みんなのために働こうとする心身を育てる。 ◆家庭での手伝いや学級の係活動の大切さに気付くことで、人のために役に立とうとする気持ちをはぐくむ。 【はたす】</p>	<p>「かかりじまん大会しよう」</p> <p>○係活動や集会活動を通して、自分の役割に気付き、進んで果たそうとするとともに、仲よく助け合い、学級生活を楽しくすることができる。 ◆「かかりじまん大会」の計画や集会活動を通して、自分の役割を自覚させ、進んで役割を果たそうとする意欲をはぐくむ。 【はたす】</p>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">朝読書</div> <p>○読書の楽しみや喜びを味わい、想像力や感性を豊かにすることができる。 ◆読書活動を通して、登場人物や著者の考えに共感し、よりよい生き方を考え、将来に向かって学び続けようとする意欲を高める。 【もとめる】</p>			
3								<p>「これ、いいかんじーザラザラ ふわふわー」</p> <p>○材料の特性を体全体で感じながら、イメージを広げる。 ○形や色の変化を生かして、楽しくつくる。 ◆自分の好きなことや興味をもったことに進んで取り組み、自分の思いを表そうとする気持ちをはぐくむ。 【もとめる】</p>					



主題名 はたらくって楽しいな

資料名 のぶくんはポスターがかり

第2学年

道徳の時間

### 〈本時のねらい〉

○働くことのよさを感じ、みんなのために働こうとする心情を育てる。

### 志教育の視点

- ・家庭での手伝いや学級の係活動の大切さに気付くことで、人のために役に立とうとする気持ちをはぐくむ。

### 〈学習の流れ〉

#### 1 毎日やっているお手伝いや当番活動、係活動などの仕事について発表し合う。

- ・夕飯のときに家族のおはしを並べている。
- ・黒板係として、毎日黒板をきれいに消している。

#### ポイント

- 身近な生活場面を取り上げることによって、自分の日常の実践を意識しながら資料に入れていけるようになります。

#### 2 資料を活用し、登場人物の気持ちについて考える。

- 係になった当初の主人公の気持ちについて考える。
  - ・ポスター係になったとき、のぶくんはどんな気持ちでしたか。
- 係の仕事を忘れていた自分に対して、友達から期待の言葉をかけられたときの主人公の気持ちについて考える。
  - ・まさとくんに「楽しみにしている」と言われたとき、のぶくんはどんな気持ちでしたか。
- 一生懸命努めたことによって、みんなに喜んでもらった時の主人公の気持ちについて考える。
  - ・カマキリのポスターを笑顔で眺めていたのぶくんはどんなことを思っていたでしょう。

#### ポイント

- 事前に日常生活の中で児童の様子を把握しておき、意図的に指名したり、写真等を紹介したりして、自己有用感を高め、みんなのために働くことのよさが実感できるようにすることが大切です。

#### 3 これまでの自分の仕事を振り返り、みんなの役に立ってよかったと思ったことについて考える。

- ・お手伝いや当番活動、係活動を通して、周囲の人から喜んでもらった経験について振り返り、ワークシートに書いたり発表したりする。

### 夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・人の役に立とうとする気持ちをはぐくむために、生活の振り返りの場や手だてを工夫する。

は  
た  
す

題材名

「かかりじまん大会」をしよう

第2学年

学級活動

〈題材のねらい〉

○係活動や集会活動を通して、自分の役割に気付き、進んで果たそうとするとともに、仲よく助け合い、学級生活を楽しくすることができる。

志教育の視点

・「かかりじまん大会」の計画や集会を通して、自分の係活動の役割を自覚させ、進んで役割を果たそうとする意欲をはぐくむ。

は  
た  
す

〈題材の流れ〉

1 「かかりじまん大会」の計画を立てる。

- 「かかりじまん大会」でどんなことを発表するか話し合う。
  - ・教師と一緒に進行し、提案者の児童と教師が共に考え提案理由を明確にするなどして、話し合い活動を進めるようにする。
  - ・係ごとに自慢したい内容を話し合う。  
(仕事の内容や頑張っていること、大変なこと、うれしいことなど)
  - ・集会に向けての準備や役割分担について話し合う。

ポイント

- どんなことを発表するか、自分の考えをもって話し合いに臨めるようワークシートなどを工夫することが大切です。

2 「かかりじまん大会」の準備を進める。

- 係ごとに発表用シートや発表で使う道具の準備や発表の練習をする。

ポイント

- どの係も学級のみんなのことを考えて活動していることに気付かせるために、友達の頑張りに目を向けさせることが大切です。

3 「かかりじまん大会」(学級集会)をする。

- 発表会后、「ありがとうカード」を記入する。
  - ・発表を聞いて、他の係の頑張っていることを「ありがとうカード」に記入し、それぞれの係に渡す。

夢をはぐくみ志に高める手だて

・自分の係活動の役割を自覚させ、進んで果たそうとする意欲をはぐくむために、場の設定や指導法を工夫する。

活動名

ちびっこクリーン隊（清掃活動）

第2学年

その他の活動

か  
か  
わ  
る

〈活動のねらい〉

- 清掃の仕方を理解し、進んで取り組むことができる。
- 自分の役割を行うこと、友達と協力することの大切さを考えることができる。

志教育の視点

- ・清掃活動の取組の中で、自分や友達のよさに気付かせる。
- ・学級の係活動、清掃活動等での役割を自覚させる。

は  
た  
す

〈取組の概要〉

1 事前活動（学級活動、朝の会等で）

- ・自分たちの掃除について振り返る。
- ・掃除をすることの大切さを考える。
- ・「ちびっこクリーン隊」の活動とめあてを決める。
- ・「がんばりカード」の記録の仕方を知る。

ポイント

- 掃除に取り組むめあて、手順、自分たちの工夫などをカードにまとめさせることで、意欲を高めることにつながります。

2 日常清掃活動（「ちびっこクリーン隊」出動）

- 掃除始め：準備を素早くする。
  - ・身支度し、掃除の順序やめあてを確認する。
- 掃除中：力いっぱい、協力して掃除をする。
  - ・自分の役割を確かめて取り組む。（「一人一仕事」に挑戦！）
  - ・終わっていないところは協力して取り組む。
- 掃除後：きちんと後片付けをし、反省会をする。
  - ・用具を整頓し、掃除箇所を全員で点検する。
  - ・「がんばりカード」に記入する。
  - ・掃除を終えた感想を輪番で話す。（きれいになった気持ちよさや頑張ったところなど）

ポイント

- 活動中に効果的に巡回し、教師の見取り(評価)を行うことが大切です。また、高学年児童の一生懸命な姿を見せることも効果的です。

3 事後活動（学級活動、帰りの会等で）

- ・頑張った友達の紹介や、掃除中のよい姿や用具の後始末について教師の話を聞く。
- ・他のグループの掃除の様子を聞き、よさを認め合う。
- ・他の教師から励ましのメッセージを聞く。

ポイント

- 低学年では、短い期間ごとの振り返りが大切です。友達や先生からの評価、他の学年の先生からの励ましなどは、役割を果たす意欲を高めます。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・互いのよさに気づき、活動への意欲を高めるために、自分や友達の頑張ったことを伝え合う活動の場を設定する。

活動名

朝読書

全学年

その他の活動

### 〈活動のねらい〉

- 読書の楽しみや喜びを味わい、想像力や感性を豊かにすることができる。

### 志教育の視点

- ・読書活動を通して、登場人物や著者の考えに共感し、よりよい生き方を考え、将来に向かって学び続けようとする意欲を高める。

### 〈活動の流れ〉

- 朝の読書活動を業前時間に位置付け、年間を通して実施する。
  - ・業前時間に読む本を児童が事前に用意しておく。
  - ・1日で読み切る作品だけではなく、継続して読み続けるものなど、興味に応じた作品を選択する。
  - ・教師も一緒に読むようにする。
- 学期、月ごとに「伝記週間」、「地域の偉人週間」などを設定して、先人の偉業に触れる。
  - ・低学年など発達の段階に応じて、読み聞かせの方法をとる。
  - ・「みやぎの郷土資料」等を配付するなど、同じ資料を読む方法も考えられる。
- 読み終えた本について紹介カードに記入し掲示する。
  - ・面白くてみんなに伝えたい部分を紹介カードに書くことで、友達にも感動を伝える。
- 昼の放送などにより、読書の啓発をする。
  - ・委員会が中心になり、新刊本や紹介カードを伝えることにより一層読書に興味をもつようにする。

#### ポイント

- 鎌田三之助、土井晩翠、落合直文など、郷土の偉人作品を県内外の図書館から集め、家庭にも協力してもらうなど、読書環境を整備することが大切です。

#### ポイント

- 学年の発達の段階や一人一人の読書に対する興味に応じた本の紹介や、互いの読書活動の交流を継続的に行っていくことが大切です。

### 夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・よりよい生き方を考え、将来に向かって学び続けようとする意欲を高めさせるために、テーマを設けた読書週間の設定や、読書に興味をもたせるような工夫をする。

単元名  
ありがとうをとどけよう

第2学年  
生活科 (学校支援地域本部事業活用事例)

〈活動のねらい〉

○自分の成長に関心を持ち、振り返ることを通して、自分が成長してきたことや、成長の背景には多くの人の支えがあったことに気付くとともに、成長を支えてくれた人に感謝し、未来に向かって意欲的に生活できる。

志教育の視点

・地域の人たちが自己の成長にかかわっていることに気付かせる。

〈活動の流れ〉

1 自分を支えてくれたり、様々なことを教えてくれたりした人たちのことを思い出す。



・これまでまとめてきた生活科シートや感想カードをもとにして、自分ができるようになったことを見つける。  
・支えてくれた人がいることで、自分ができるようになったことが増えたことに気付く。

ポイント

●地域の人たちの支援の様子が分かる写真やビデオを提示することで、自分や友達の成長を支えてくれる人がいることに気付かせるとともに、感謝の気持ちを抱かせることが大切です。

2 自分なりの方法でお礼の気持ちを表現する。



・支えてくれた人との会話や活動を思い出し、感謝の気持ちを表すためにどんな方法が一番いいかを考える。  
・感謝状、絵日記、紙芝居、ありがとうメダル、絵本、よびかけ、創作劇等、感謝の気持ちを表す準備をする。

ポイント

●感謝の気持ちを伝える場を設けることで、地域の人との交流を図ることができます。また、思いが伝わった達成感を味わうことができます。

3 自分を支えてくれたり、様々なことを教えてくれたりした人たちにお礼の気持ちを伝える。



・支えてくれた方々をミニ発表会（地域参観）へ招待し、歌や紙芝居、よびかけなどの発表をプレゼントする。

夢をはぐくみ志に高める手だて

・多くの人々が自己の成長にかかわっていることに気付かせるために、地域の人たちとのかかわりの場の設定や、振り返りの手法を工夫する。

単元名

みんなでつくろうフェスティバル

第2学年

生活科

かかわる

〈活動のねらい〉

○これまでにかかわった人々を招待して、これまで学んできたことや心に残った出来事を発表することで感謝の気持ちを伝えることができる。

志教育の視点

- ・フェスティバルの活動での役割を自覚させる。
- ・活動の中で、自分のよさや友達、地域の方々のよさに気付かせる。

はたす

〈活動の流れ〉

1 計画をたてる。

○伝えたい人や招待する人たちに喜んでもらえる計画を立てる。

2 準備をする。

- ・招待状やポスターの作成。
- ・子どもも大人も喜ばせることができる発表やゲームコーナーなどについて、発表方法や内容を工夫する。
- ・作品展示やゲームコーナーのための準備をする。

ポイント

●昔遊びコーナーなどで招待した人たちと触れ合い楽しむことができるよう輪番制などの工夫が大切です。

3 フェスティバルをしよう。

- ・第1部「学んだことの発表」第2部「招待者と一緒に交流」の2部構成で開催する。
- ・発表の部では、歌や合奏、ダンスなどを披露する。
- ・交流の部では、地域のお年寄りと一緒に活動したり、昔の遊びを教わったりする各種コーナーを設定する。

ポイント

●地域の方々と連携して活動が行われるよう、定期的に活動の様子をお知らせすることも大切です。

4 活動を振り返る。

- ・振り返りカードに感想を記入し発表する。
- ・参加した地域のお年寄りにお礼の手紙やメッセージカードを書く。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・感謝の気持ちを表現させるために、活動の場を設定し、発表や交流の方法を工夫する。

単元名

話したいな、とくいなこと

第2学年

国語科

かわる

もめる

〈本時のねらい〉

- 自分の得意なことが聞いている人に伝わるように順序よく話すことができる。
- 友達の得意なことを興味をもって聞き、感想を話したり質問をしたりすることができる。

志教育の視点

- ・得意なことを話す活動を通して、それぞれのよさに気づき、自分の得意なことを更に伸ばし、これからの生活に生かそうとする気持ちをはぐくむ。

〈学習の流れ〉

- 1 本時のめあてを確認する。
  - 友達の前で得意なことを話す取組であることを確かめる。
- 2 話す人、聞く人が気を付けることを確かめる。
  - これまで学習してきたことを振り返り、話す側、聞く側の留意点について確認する。
  - ＜話す人＞
    - ・話したいこと（得意なこと）を順序よく話す。
    - ・教室の後ろの人にも聞こえる声で話す。
    - ・早口にならないように気を付ける。
  - ＜聞く人＞
    - ・話す人をよく見て、何が得意なのかをしっかりと聞く。
    - ・聞いて思ったことやもっと知りたいことを進んで尋ねる。
- 3 友達の前で得意なことをくわしく話す。
  - 「はじめ」、「なか」、「おわり」と話し方の構成例を示して話させる。
  - ペア学習やグループ学習などを取り入れるとともに、メモや評価シートなどを工夫し、相互に伝わったかを確認できるようにする。
    - ・できるだけ聞く人を見て話す。
    - ・友達の話をよく聞き、もっと知りたいことを質問したり、感想を言えるようにする。
- 4 発表のまとめをする。
  - 聞き取った友達のよさを伝え合うとともに、次に誰に伝えたいかを考えさせる。

ポイント

- 声の大きさや話す速さといった技能の評価だけでなく、聞き取った内容や友達のよさを書き込むことができる簡単なワークシートなどを用意しておくといでしょう。

ポイント

- 自分の得意なことを友達に認めてもらったという思いを十分に感じさせることで、さらに得意なことを伸ばしていこうとする気持ちをもたせましょう。また、他のグループの人や家族にも教えたいという意欲へつなげましょう。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・それぞれのよさに気づき、自分の得意なことを更に伸ばし、これからの生活に生かそうとする気持ちを育てるために、場の設定や指導法を工夫する。

題材名 これ いい かんじ  
ザラザラ フワフワ

第2学年  
図画工作科

### 〈題材のねらい〉

- 材料の特性を体全体で感じながら、イメージを広げる。
- 形や色の変化を生かして、楽しくつくる。

### 志教育の視点

- ・自分の好きなことや興味をもったことに進んで取り組み、自分の思いを表そうとする気持ちをはぐくむ。

### 〈学習の流れ〉

#### 1 材料の特徴をとらえる。

- 実際に触れることで、形や色や感触を味わう。
- ・自分で集めたものや材料コーナーを活用する。
- ・エアキャップ、モール、新聞紙、クラフト紙、ウレタンなどを体感する。

#### ポイント

- 材料は、色や形、材質の異なるものを準備しましょう。感動や驚きを生み出すことで、多様な活動ができるようにさせることが大切です。

#### 2 材料の特徴から自分の思いをふくらませ、作品を作る。

- 色や形の変化を工夫する。
- ・材料の変化を楽しみながら、つくりたいものを考える。  
丸めたり、ねじったり、膨らませたりする。
- ・自分の表したい思いをもって活動する。
- 形を整える。
- ・思い浮かべる姿に近づけていく。  
大きさや形、色を考えながらつくり上げていく。
- ・自分の表したい思いをイメージして活動する。

#### ポイント

- 材料を見つめながら気付いたり、考えたりすることができるような教師の働きかけが大切です。

#### 3 考えや思いを発表する。

- お互いの作品を鑑賞し、発表し合う。
- ・互いに鑑賞し合い、考えや思いを聞き合うことで、更に自分の思いやイメージを広げる。

#### ポイント

- お互いの作品を鑑賞する際、友達のよい点や工夫している点に目を向けることができるようにしていくことが大切です。

#### 4 次時への意欲を高める。

- 更に工夫することを考える。

### 夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・自分の好きなことや興味をもったことに進んで取り組み、自分の思いを表そうとする気持ちをはぐくむために、造形活動の楽しさを味わわせる場を設定する。



2-2

小学校第4学年

# 指導計画例（小4）

学 期	各 科							道徳・総合的な学習の時間・特別活動			その他の活動	
	国語	社会	算数	理科	音楽	図画工作	体育	道徳	総合的な学習の時間	特別活動		
1				<p><b>「電気のほたらき」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「自動車（乾電池とモーターをつなぎ電気の力で）速く走らせるにはどのようにするかはよいか」を実験を通して考える。</li> <li>◆課題解決のための考え方を求めて、主体的に取り組もうとする気持ちをばぐむ。【もどめる】</li> </ul>				<p><b>「育ちゆくからだとわたしーわたしは4年生ー」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○身長や体重が年齢に伴って変化することや、発達の違いや個人差があることを理解する。</li> <li>◆健康的で明るい毎日を送ろうとする意欲を高める。</li> <li>◆お互いの違いやよさを認め合う気持ちを育むとともに、自分の成長には多くの人がかかわっていることに気付かせる。【もどめる】</li> </ul>				<p><b>楽しいスピーチ（朝の会・帰りの会）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○伝える相手や目的を明確にして、自分の考えを豊かに表現する力を身に付ける。</li> <li>◆朝の会（帰りの会）の活動の中で自信をもって自分の意見を発表させるとともに、互いのよさを認めさせる。【かかわる】</li> </ul>
2	<p><b>「取材したことをもとに学級新聞をつくらう」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○取材したことを整理し、分かりやすい記事を書くことがで</li> <li>○読み手の興味を引く書き方を工夫することができる。</li> <li>◆お互いの意見や考えを伝え、かかわり合うことで、互いを認め合おうとする気持ちをばぐむ。【かかわる】</li> </ul>	<p><b>「品井沼干拓」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○品井沼干拓にかかわる排水路や河川改修が果たしている役割を理解するとともに、それをつくった人々の苦勞や願い、地域をよりよくしたいという思いを理解する。</li> <li>○品井沼干拓にかかわった人々に関心をもち、資料を活用したり現地調査をしたりして、その働きの苦勞を考察することができる。</li> <li>◆集団や社会の一員としての役割に気付かせる。</li> <li>◆人のために役立つ書き方をした先人から自分の生き方を考えさせる。【もどめる】【はたす】</li> </ul>			<p><b>「いろいろな音を聴き取ろう」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○音色の違いを生かし、おもしろい音の組み合わせをつくる。</li> <li>◆よりよいものをつくるために、友達とかわかることの大切さに気付かせ、最後まで取り組もうとする気持ちをばぐむ。【もどめる】【かかわる】</li> </ul>	<p><b>「おく場所を考えながらワンダーランドへようこそー」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○夢や不思議の世界の想像を楽しむ。</li> <li>○友達と協力して不思議の国をつくる。</li> <li>◆互いのよさや友達と協力する大切さに気付かせ、最後自分の役割を自覚させる。【はたす】【かかわる】</li> </ul>			<p><b>「学芸会を成功させよう」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○友達と協力して、学芸会を成功させるための目標を決めることができる。</li> <li>◆話し合い活動を通して、集団の一員としての役割を果たそうとする意欲を高める。【はたす】</li> </ul>			
3								<p><b>「友達だからこそー大きな絆はが巻ー」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「1/2成人式」への思い、ときには悲告しながら友情を深めていこうとする心情を育てる。</li> <li>◆友達をよさを認め合い、互いに信頼することの大切さを自覚し、励まし合おうとする気持ちをばぐむ。【かかわる】</li> </ul>	<p><b>「1/2成人式」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「1/2成人式」への思い、これまでの10年・これから10年（年）」作りを通して、将来への夢や希望を抱くことができる。</li> <li>◆これまでの自分を振り返り、支えてくれた人への感謝の念を抱かせ、励まし合おうとする気持ちをばぐむ。【もどめる】</li> </ul>			<p><b>「1/2成人式」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○これまでの自分を振り返り、支えてくれた人への感謝の念を抱かせ、励まし合おうとする気持ちをばぐむ。【もどめる】</li> </ul>

主題名 友達だからこそ

資料名 大きな絵はがき

第4学年

道徳の時間

### 〈本時のねらい〉

○友達と互いに信頼し合い、ときには忠告し合いながら友情を深めていこうとする心情を育てる。

### 志教育の視点

- ・ 友達のよさを認め合い、互いに信頼することの大切さを自覚し、励まし合おうとする気持ちをはぐくむ。

### 〈学習の流れ〉

1 友達がいてよかったと思うことについて発表し合う。

2 資料を活用し、登場人物の気持ちについて考える。

- ・ 絵はがきを受け取ったときの主人公の気持ちについて考える。
- ・ 料金不足について告げるべきかどうか迷う主人公の心の揺れについて自己を託しながら考える。
- ・ ペアで役割を交代しながら役割演技を行い、それぞれの立場になって感じたことや考えたことをグループで意見交換する。
- ・ 告げることに関わったときの主人公を支えた心（思い）について考える。

#### ポイント

- 葛藤場面では、役割演技等の手法や意見交換を行う場などの工夫をすることで、どちらの行為も友達のことを思っているの判断であり、それぞれの立場の考えがあることに気付かせましょう。

3 これまでの自分を振り返るとともに、今後、どのような友達関係を築いていきたいかについて考える。

- ・ 自分の考えをワークシートに書く。

#### ポイント

- 友達とかわる中で、互いのよさを認め合ったり、ときには忠告し合ったりしながら、共に成長するという視点にも気付かせることが大切です。

4 感得した価値について温め、生活につなげる。

- ・ 心のノートを活用し、信頼・友情のある生活についての思いを深める。

### 夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・ 友達のよさを認め合い、互いに信頼することの大切さを自覚し、励まし合おうとする気持ちをはぐくむために、葛藤場面を設定し、多様な思いや考えに触れさせるような指導を工夫する。

題材名

学芸会を成功させよう

第4学年

学級活動

〈本時のねらい〉

○友達と協力して、学芸会を成功させるための目標を決めることができる。

志教育の視点

・話し合い活動を通して、集団の一員としての役割を果たそうとする意欲を高める。

〈学習の流れ〉

1 これまでのことを振り返り、本時の課題をつかむ。

- これまでの学芸会を振り返る。
  - ・全員で歌を歌うなどして意見を発表しやすい雰囲気をつくる。

2 話し合いをする。

- 提案者から、今日の議題について提案理由を発表する。  
 「学芸会を成功させよう。」
- ・思い出に残るような学芸会にすることが大切であることを共感させ、課題意識をもって話し合わせる。
- 学芸会を成功させるための目標についてグループで話し合い、グループとしての案を発表する。
  - ・各グループからの案や意見のよさを認め、多くの意見を取り入れた目標にしていく。
  - ・話し合いを通して、互いに協力して頑張ろうとする意欲を高める。

3 決まったことを確認し、話し合いを振り返る。

- 学級の目標を確認する。
- 本時の課題をしっかりと話し合えたか振り返る。

4 学級の目標を受け、自分の目標を決める。

- 今日の話合いや学芸会での自分の役割を考えて個人目標を決め、カードに記入する。
- それぞれの目標を発表し、意見を交換する。

ポイント

●昨年度の学芸会のプログラムや作文などを提示することで、より思い出深い学芸会となるような目標づくりに意欲をもたせましょう。

ポイント

●学芸会の全校、学年、学級の目標を踏まえるとともに、自分の役割を具体的にイメージして個人の目標を設定させましょう。

は  
た  
す

夢をはぐくみ志に高める手だて

・集団の一員としての役割を果たそうとする意欲を高めるために、話し合いの場の設定を工夫する。

単元名

1/2成人式

第4学年

総合的な学習の時間

かわる

もどめる

〈単元のねらい〉

- 「1/2成人式」へ向けての「自分史（これまでの10年・これからの10年）」作りを通して、将来への夢や希望を抱くことができる。

志教育の視点

- ・これまでの自分を振り返り、支えてくれた人への感謝の念を抱かせる。
- ・「1/2成人式」を通して、自らの生活を振り返り、将来への夢や希望を膨らませる。

〈単元の流れ〉

1 「1/2成人式」の準備について話し合う。

- 準備日程や発表の内容を確認する。
- ・「1/2成人式」の概要。
- ・「自分史（これまでの10年・これからの10年）」の内容

2 「自分史（これまでの10年・これからの10年）」を作成する。

- 今までの自分を振り返り、これからの自分をイメージする。
- ・第1部：これまでの自分（頑張った思い出）
- ・第2部：これからの自分（将来への夢や希望）

3 招待状を作る。

- 「1/2成人式」に招待したい人を考える。
- ・相手に合った内容の招待状を作成する。

4 「1/2成人式」を行う。

- 「自分史（これまでの10年・これからの10年）」を基に全員が自分の思いを発表する。
- ・将来への夢や希望を中心に発表する。

5 「1/2成人式」を振り返る。

- 学んだことを「自分史（これまでの10年・これからの10年）」の「2011年1/2成人式」の欄に記入する。

ポイント

- 第1部は、生年月日、自分の名前の由来、これまで頑張ったと思う5つの出来事で構成します。第2部は「6年生のとき」、「中学校生活」、「高校生活」、「二十歳の自分」の4つで構成し、そのとき自分がどのようなことをしているかという視点でイメージを膨らませられるよう指導します。

ポイント

- 自分史は全員分掲示し、参加者全員に認めてもらうことや、お互いの将来への思いを認め合うことが大切です。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・自分自身や自分を支えてくれている人について改めて考えさせるために、過去から未来をつなぐ自分史作りに取り組みさせる。

活動名 楽しいスピーチ  
(朝の会・帰りの会)

第4学年  
その他の活動

〈活動のねらい〉

○伝える相手や目的を明確にして、自分の考えを豊かに表現する力を身に付ける。

志教育の視点

- ・朝の会（帰りの会）の活動の中で、自信をもって自分の意見を発表させるとともに、互いのよさを認めさせる。

〈活動の流れ〉

1 朝の会（帰りの会）でスピーチを行う。

- 新聞記事の紹介をするスピーチを行う。
- ・選んだ新聞記事についてのスピーチメモを準備する。
- ・新聞記事の紹介だけでなく、その記事に対する自分の考えや意見を発表する。

ポイント

- 安心して発表できるようにメモの準備や発表の仕方について例示するなど支援することが大切です。

2 分かりやすい話し方を工夫する。

- ・国語科の学習と関連付け、「声のダイヤル」や「話型」を意識して、分かりやすい話し方になるようにする。

ポイント

- 互いの発表を認め、自分と違う考え方に対しても受け入れることができる共感的な学級づくりが大切です。

3 意見や感想を発表する。

- スピーチに対する意見や感想を発表する。
- ・互いの考え方の違いや共感できることなどを共有する。

ポイント

- 日々のスピーチ活動を通して、お互いのよさを認め合う体験を積み重ねることが大切です。

4 意見の交流を図る。

- よかった点を評価し合い、共通の話題で意見の交流を行う。

5 次に話をする友達を紹介する。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・互いのよさを認め合えるように、発表・交流の場を設定する。

単元名

取材したことを基に学級新聞を作ろう

第4学年

国語科

〈本時のねらい〉

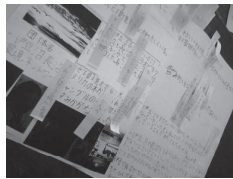
- 取材したことを整理し、分かりやすい記事を書くことができる。
- 読み手の興味をひく書き方を工夫することができる。

志教育の視点

- ・お互いの意見や考えを伝え、かかわり合うことで、互いを認め合おうとする気持ちをはぐくむ。

〈学習の流れ〉

- 1 本時のめあてを確認する。
  - ・互いの班の新聞のよい点と改善点を伝え合うことを確認する。
- 2 グループ内で話し合いを行う。
  - ・前時までにグループで作成した新聞について、更によりよい新聞になるように改善点を考え、付箋に記入して貼り出し、その理由を発表し合う。
- 3 他の班の新聞を見合う。
  - ・他の班の新聞の改善点を見つけるとともに、よい点、工夫している点もできるだけたくさん見つけるようにする。
- 4 自分の班の新聞のよい点、改善点について話し合う。
  - ・自分たちで考えた改善点と他の班からのアドバイスとを比較しながら、更にどのようにしたらよいものになるかを考える。
- 5 改善点をまとめ、学習カードに記録する。
- 6 お互いの班の新聞の改善点を発表する。



ポイント

- 改善の視点をはっきりと示して話し合いをさせましょう。構成や内容、新聞に込められた思いや願いに気付かせることが大切です。

ポイント

- 改善の理由などを明確に発表し合う中で、お互いを認めたり自己を生かす体験をさせることが大切です。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・お互いを認め合おうとする気持ちをはぐくむために、お互いの考えを伝え合い、かかわり合う場の設定や手法を工夫する。

単元名

品井沼干拓

第4学年

社会科

〈単元のねらい〉

- 品井沼干拓にかかわる排水路や河川改修が果たしている役割を理解するとともに、それをつくった人々の苦労や願い、地域をよりよくしていこうとした思いを理解する。
- 品井沼干拓にかかわった人々に関心を持ち、資料の活用や現地調査を行うことを通して、その働きや苦労を考えることができる。

志教育の視点

- ・集団や社会の一員としての役割に気付かせる。
- ・人のために役立つ生き方をした先人から、自分の生き方を考えさせる。

〈単元の流れ〉

1 品井沼干拓について概要を知る。

- 元禄・明治排水路工事、吉田川の改修と工事、干拓にかかわった人々について、資料を基に概要をつかみ、課題や調査方法などをとらえる。

ポイント

- 鎌田三之助の行動や干拓にかかわった人々の働きや苦労に目を向けさせることが大切です。

2 品井沼干拓について社会見学や資料等で調査する。

- ワークシートやノートに、スケッチや文で記録する。
- ・干拓にかかわった人々の働きや苦労についても記録させる。

3 調査の結果をまとめる。

- 自分で選択した表現方法でまとめる。

ポイント

- 目的を達成するための努力に向けた生き方にも目を向けさせることが大切です。

4 品井沼干拓についての発表会をする。

- 品井沼干拓にかかわる排水路や河川改修が果たしている役割、干拓にかかわった人々の働きや苦労について、分かったことや考えたことを発表する。

5 学習のまとめをする。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・先人の思いや願いを考えて記入できるような学習カードを工夫する。



単元名

電気のはたらき

第4学年

理科

〈本時のねらい〉

- 「自動車を（乾電池とモーターをつなぎ電気ので）速く走らせるにはどのようにすればよいか」を実験を通して考える。

志教育の視点

- ・課題解決のための考え方を求めて、主体的に取り組もうとする気持ちをはぐくむ。

〈学習の流れ〉

1 本時のめあてを確認する。

- 乾電池とモーターをつないで車を速く走らせよう。
- ・乾電池とモーターのつなぎ方（回路の考え方）についての確認をする。
- ・乾電池の向きとモーターの回転の関係を確認する。
- ・前時に製作した車の点検を行う。

ポイント

- 探究心をもって実験に取り組ませることで、理科の楽しさを味わわせ学習の意欲を高めることが大切です。

2 実際に車を走らせてみる。

- 実際に模型の車を走らせてみる。
- ・電気で車を走らせるためには、どのような条件が必要か考える。

ポイント

- 理由を考えて予想を立てさせたり、結果の考察をさせたりすることが大切です。

3 課題解決のための話し合いや実験をする。

- 速く走らせるための方法を考え、話し合う。
- 様々な方法を試しながら、速く走らせるための方法を確認する。

4 次時への期待をもたせる。

- 次時の活動の方向を示し、意欲付けとする。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・課題解決に向けて、主体的に取り組めるよう試行錯誤の時間を十分確保するなど追究の場を工夫する。

単元名

いろいろな音を感じ取ろう

第4学年

音楽科

かかわる

もとめる

〈本時のねらい〉

○音色の違いを生かし、おもしろい音の組み合わせをつくる。

志教育の視点

- ・よりよいものをつくるために、友達とかかわることの大切さに気付かせ、最後まで取り組もうとする気持ちをはぐくむ。

〈学習の流れ〉（2時間扱い）

1 いろいろな打楽器の音色の違いを感じ取る。

- いろいろな打楽器を鳴らして聴き比べる。
- ・自分の好きな音、興味をもった音について学習カードに記入する。

2 グループごとに、おもしろい音の組み合わせになるように話し合う。

- 好きな音や興味のある音を基に、グループごとに設定したイメージに合った音づくりに取り組む。
- グループごとに「お祭り」や「星の世界」等のテーマを考え、そのテーマに合う打楽器の組み合わせを工夫する。
- ・打楽器の材質の違い、音の強さによる違いなどに気を付けて試してみる。
- ・打楽器を鳴らす分担と順番を決める。
- ・図形楽譜等にまとめる。
- ・演奏の練習をする。

ポイント

- よりよいものをつくるためにグループで十分意見交換をさせることが大切です。

3 グループごとの発表会をする。

- テーマに合わせて好きな音、興味をもった音を組み合わせで演奏する。
- ・他のグループの演奏について感想を発表する。

ポイント

- 自分たちの作品を発表することの楽しさや他の作品のよさに目を向けさせ、よりよいものをつくろうとする意欲を高めることが大切です。

4 感想を基に自分たちの演奏を振り返り、よりよいものにするために練習する。

- よりテーマに合った演奏を工夫して練習し、発表する。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・友達とかかわることの大切さに気付かせ、最後まで取り組もうとする気持ちをはぐくむために、よりよいものをつくる喜びを体験する活動を設定する。

題材名 おく場所を考えながら  
ワンダーランドへようこそ

第4学年  
図画工作科

か  
か  
わ  
る

### 〈題材のねらい〉

- 夢や不思議の世界の想像を楽しむ。
- 友達と協力して不思議の国をつくる。

### 志教育の視点

- ・ 互いのよさや友達と協力することの大切さに気付かせる。
- ・ 制作活動の中で自分の役割を自覚させる。

は  
た  
す

### 〈学習の流れ〉

- 1 ワンダーランドを想像する。
  - 行ってみたい場所を決める。
    - ・ 扉の向こうに広がる世界に思いをはせる。
    - ・ 一人一人の考えをグループで出し合い、場所と係分担を決める。
- 2 扉と絵を制作する。
  - 係ごとにそれぞれが作り上げる。
    - ・ 扉をつくる、下絵を描く、着色するなどの手順を検討する。
    - ・ 扉を置く場所に行って雰囲気を楽しむ。
    - ・ 進み方を確認し合いながら活動する。
- 3 発表する。
  - グループの発表を行う。
    - ・ それぞれ選んだ場所でワンダーランドを発表する。
    - ・ 他のグループの発表を見て、不思議の世界を感じる。
- 4 思いを共有する。
  - 感じたことを発表したり、友達の感想を聞いたりする。
    - ・ 友達の思いを受け止め、互いを認め合う。

#### ポイント

- 一人一人が思い描いたことを互いに練り合い、発想を刺激しながら、グループとして構想させていく必要があります。

#### ポイント

- 分担を確認させるとともに作品の進行状況を意識できるような教師の働きかけが大切です。

#### ポイント

- 思ったことをメモしたり、友達と語り合ったりすることで、多様な考えに気付かせ、制作過程における頑張りも認め合わせることが大切です。

### 夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・ 互いのよさや友達と協力することの大切さに気づき、役割を自覚させるために、共同で制作する活動を設定する。

単元名 育ちゆくからだわたし（保健）

題材名 わたしは4年生

第4学年

体育科

か  
か  
わ  
る

も  
と  
め  
る

### 〈本時のねらい〉

○身長や体重が年齢に伴って変化することや、発達のしかたには個人差があることを理解する。

### 志教育の視点

- ・健康的で明るい毎日を送ろうとする意欲を高める。
- ・お互いの違いやよさを認め合う気持ちをはぐくむとともに、自分の成長には多くの人がかかわっていることに気付かせる。

### 〈学習の流れ〉

#### 1 小学校に入学したときから今までの成長に気付く。

- 小学校入学時から4年生までの成長を視覚的に実感する。
- ・小学校1年生の入学時の写真やその頃に身に付けていた物を見て、自分の成長に関心をもつ。
  - ・一人一人の身長の伸びを表した紙テープ（教師が準備）を手にすることにより、自分の成長を感じる。

#### ポイント

- 自分の成長を実感するとともに、お互いの成長を認め合い喜び合うことができる工夫が大切です。

#### 2 自分の身長の伸びを表したグラフを作成し、気付いたことを話し合う。

- 誰もが年齢に伴って身長が伸びていくことを理解し、どのように伸びてきたか考える。
- ・友達の発表を聞いたり、グラフを見たりすることにより、個人差があることに気付く。

#### ポイント

- 個人差や性差があることを理解させるとともに、一人一人がお互いの違いやよさを認め、今の自分を大切にしながら、今後の成長への期待感を高めることが大切です。

#### 3 6才から15才までの6人の育ち方（教科書）について考え、発表する。

- 教科書に提示されている6人の育ち方について違いを見つけ、どんな育ち方の特徴があるか考える。
- ・個人差や性差について理解を深めるとともに、自分のこれからの成長に対し期待をもつ。

#### 4 本時の学習を振り返る。

- ・教師のまとめの話を聞くとともに、本時の学習で分かったことや思ったことをワークシートに書き、発表する。

### 夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・お互いの違いやよさを認め合う気持ちをはぐくみ、多くの人とのかかわりに気付かせるために、それぞれの成長を実感させる教材提示の工夫や認め合う場の設定をする。

2-3

小学校第6学年

# 指導計画例 (小6)

学 期	各 科										道 徳・総合的な学習の時間・特別活動	その他の活動	
	国語	社会	算数	理科	音楽	図画工作	家庭	体育	外国語活動	道徳			総合的な学習の時間
1					<p>「楽譜を聴もうー楽譜を風ながら歌いましょうー」</p> <p>○ハ長調の楽譜に親しみ、音程やリズムに気を付けながら視唱したり、拍の流れに乗りながら演奏したりすることが出来る。</p> <p>◆合唱への取組を通して、最学年生活への期待感を高め、主体的に音楽に取り組む気持ちをばぐくむ。</p> <p>【もとめる】</p>	<p>「朝の生活を重畳そう」</p> <p>○朝食の大切さを理解し、栄養バランスのよい朝食をおかずを考え、朝食づくりの計画を立てる。</p> <p>◆家族の一員としての自分の役割を自覚させる。</p> <p>【はたす】</p>	<p>「バスケットボール型ソフトボール」</p> <p>○得意をとるため、出塁と進塁ができ、また、チームをとり守備の隊形をとってアウトにする動きができる。</p> <p>◆同じ目標に向かってチームとして活動し、かわるかわる人間関係を築こうとする気持ちをばぐくむ。</p> <p>◆チームのために自分の役割や責任を果たそうとする意欲を高める。</p> <p>【はたす】</p>	<p>「I want to be a teacherー将来の夢を紹介しようー」</p> <p>○将来就きたい職業とその理由について紹介し合う活動を通して、自分の思いを伝え合うことの楽しさを体験する。</p> <p>◆外国語活動を通して、自分に自信を付ける。</p> <p>【はたす】</p>	<p>「花いっぱい作戦」</p> <p>○自分たちで栽培した花のプランターを「花いっぱい作戦」として地域に設置する活動を通して、人のために役立つ喜びを体験する。</p> <p>◆地域とのかかわりの中で社会性をばぐくむ。</p> <p>◆花いっぱい作戦を通して自分の役割や責任を自覚させる。</p> <p>【かわる】</p> <p>【はたす】</p> <p>「地域の伝統工芸に触れよう」</p> <p>○地域の伝統工芸を支える人たちの思いや信念に触れ、働くことのできる。</p> <p>◆職場訪問学習を通して、働くことの意味や自分の生き方を考える。</p> <p>【もとめる】</p> <p>・生き方を風つよう」</p> <p>○町には、江戸時代に商いで雷と文化をもたらした俳人の歴史があり、備前展に貢献した「生き方」に気付く。</p> <p>○地域の方々との交流と農作物栽培の体験を通して、郷土の歴史を紐解き、郷土のすばらしさに誇りをもつ。社会貢献に通じるよりよい生き方を見つめる。</p> <p>◆郷土のよさに気付く。社会貢献の視点で自らの生き方を考え、将来に向かって学ぼうとする意欲を高める。</p> <p>◆地域の方々と共に行動する理由を通して、地域の中でよりよい関係を築こうとする気持ちをばぐくむ。</p> <p>◆地域について学ぶことで、自己の役割を自覚させる。</p> <p>【かわる】</p> <p>【もとめる】</p> <p>【はたす】</p>	<p>「相手の受け入れの心」</p> <p>○謙虚な心もち、真の心で自分と異なる意見や立場を大切にしようとする心情を養う。</p> <p>◆互いの考えを認め合いながら生きることが、よりよい集団をつくる上で欠かせないことになり、気付かせる。</p> <p>【かわる】</p>	<p>「花いっぱい作戦」</p> <p>○自分よき環境をつくるために、行動する責任があることをとる。</p> <p>◆学級花壇の整備活動など、身近な環境美化への取組を通して、自分の役割を自覚させる。</p> <p>【はたす】</p>	<p>「自分のよさを風つめよう」</p> <p>○自分のよさに気付く。友達に認めてもらうことで、自信をもって生活する。</p> <p>◆自分のよさを風つめる活動を通して、自己理解を深化させる。</p> <p>【かわる】</p>	<p>「先輩の話を聞く会」</p> <p>○社会で活躍するゲストスピーカーの話を聞くことにより、将来の夢をもち、夢に向かって努力しようとする態度を育てる。</p> <p>◆ゲストスピーカー(社会で活躍している地域の先輩)が、夢を切いた経緯や、よりよい生き方を考え、将来に向かって学ぼうとする意欲を高める。</p> <p>【もとめる】</p>
2		<p>「江戸の文化と新しい学園」</p> <p>○江戸の文化をつくり上げた人々や、国学や蘭学のかかわった人物の中から一人取り上げ、学問や文化の特色、社会に与えた影響、人物の思いをまとめることができる。</p> <p>◆取り上げた人物の業績や生き方から、将来の生活や仕事に夢や目標をもつことの大切さに気付かせる。</p> <p>【もとめる】</p>	<p>「立体に誘うー12年後のわたしー」</p> <p>○自分の将来やその様子想像し、その内容を分る。よりに場面を工夫しながら、紙粘土などの材料を使って立体に表す。</p> <p>◆制作活動を通して、自分の将来の姿を夢見させ、夢を膨らませる。</p> <p>【もとめる】</p>										
3	<p>「伝えよう、大切にしたい名刺」</p> <p>○集めた名言の中から心に残ったものを選び、それにまつわる自分の経験や考えを簡潔に書くことができる。</p> <p>○選んだ名言について、話したいことの組み立て工夫して話すことができる。</p> <p>◆名言や名刺を、残した歴史や人物の考え方や学習を通して、自分の生き方を考えさせる。</p> <p>【もとめる】</p>												

主題名 相手を受け入れる心

資料名 ブランコ乗りとピエロ

第6学年

道徳の時間

### 〈本時のねらい〉

○謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にしようとする心情を養う。

### 志教育の視点

・互いの考えを認め合い、かかわり合いながら生きることが、よりよい集団をつくる上で欠かせないことに気付かせる。

### 〈学習の流れ〉

#### 1 普段の生活の中での体験を想起する。

- これまでの生活の中で、友達と考えや意見が違って困った経験についてワークシートに書く。
- ・発表できるものについて、2～3名発表させる。

#### 2 資料「ブランコ乗りとピエロ」について考える。

- ピエロとサム的心情について考える。
- ・演技を見てもらえなかったピエロの心情を考える。
- ・サムの立場とピエロの立場の2つのグループに分かれて考えを出し合い、その後で全体で意見交換を行う。
- ・ピエロの心からサムを憎む気持ちが消えたわけを考える。

#### 3 人間関係について自分のことを振り返るとともに、友達の考えを知る。

- 日常生活の中で、自分と違う意見や考えが出たとき、どう解決しているか、自分の考えを書く。その後、発表し意見交流を行う。

#### 4 教師の説話を聞く。

- ・生き方への関心を高め、自分の生き方に目を向けられるような説話を工夫する。

#### ポイント

●異なる考えを受け入れ、互いを認め合い協力することが集団の中で必要であることに気付かせるよう、サムとピエロの立場の考え方に触れる場の設定や、手法を工夫しましょう。

#### ポイント

●自分と異なる考えを大切にできる場面は、身近にあることに気付かせるような教師の働きかけが大切です。また、意見交流の中で、個々の考えを深めさせましょう。

### 夢をはぐくみ志に高める手だて

・互いの考えを認め協力して生活することが、よりよい集団をつくる上で欠かせないことに気付かせるために、多様な考え方に触れる場の設定や手法を工夫する。

題材名

自分のよさを見つめよう

第6学年

学級活動

〈本時のねらい〉

○自分のよさに気づき、友達に認めてもらうことで、自信をもって生活できるようにする。

志教育の視点

- ・自分のよさを見つける活動を通して、自己理解を深化させる。

〈学習の流れ〉

1 MAPのアクティビティを行う。

- ・MAPの手法を取り入れ、本時の学習に取り組みやすい雰囲気をつくる。「キャッチ」、「進化論じゃんけん」等。

2 自分のよさを見つける。

- ワークシートに自分のよさ（長所）を5つ書く。
- ・2分間など短い時間設定の中で行わせる。短時間で書けない児童がいれば、机間指導で助言しながら、少なくとも2つ程度は書けるようにする。
- ワークシートに自分の短所を5つ書く。（1分間）
- どちらが書きやすかったか考える。
- ・自分のよさよりも短所に目がいきやすいことに気付かせる。

3 友達のよさを見つけ、伝える。

- 班の一人一人について、カードにその人のよさを書いて渡す。
- ・十分な時間を取るとともに、よさに目を向けさせるようにする。
- ・カードは、楽しい雰囲気になるものを工夫する。

4 自分のよさを見つめ直す。

- 友達からもらったカードを自分のワークシートに貼り、自分で書いたものと比べ、自分のよさを見直す。
- 感想や考えたことをワークシートに書く。

5 まとめ

- ・自分の可能性の広がりや今後の生活に期待や希望がもてるようなまとめの話をする。

ポイント

- 最初のよさや短所を見つける段階では、今の自分の状況を見つめさせるという活動を重視します。思春期に近づく時期には、自分や他者の短所に目がいきやすいことに気付かせることが大切です。

ポイント

- 自分にはよさがたくさんあること、友達が自分のよさを認めていることに気付かせることが大切です。そのためには、教師が班活動の中で、個々の児童に目を配り支援していくことが必要です。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・自己理解を深化させるために、自分でよさを見つける活動や友達によさを見つけてもらう活動の場を設定する。



題材名

先輩の話を聞く会

第6学年

学級活動(学年集会)

〈本時のねらい〉

○社会で活躍するゲストティーチャーの話を聞くことにより、将来の夢をもち、夢に向かって努力しようとする態度を育てる。

志教育の視点

- ・ゲストティーチャー(社会で活躍している地域の方等)が、夢を抱いた経緯や、その実現に向けて努力を重ね現在の姿があることに気付かせ、夢をもとうとする気持ちをはぐくむ。

〈学習の流れ〉

1 ゲストティーチャーを知る。

- ・ゲストティーチャー(社会で活躍する地域の方)について紹介し、本時への期待を高める。
- ・社会で活躍している方については、有名な方だけでなく、町長さん、幼稚園時にお世話になった先生、ケーキ屋さんのパティシエなど、身近にいる方も候補として考える。

ポイント

- ゲストティーチャーについては、児童の実態を踏まえ、今児童に気付かせたい姿を意識して選定することが大切です。

2 ゲストティーチャーの話を聞く。

- ・仕事の内容、その仕事を目指したきっかけや理由。
- ・その仕事につくまでの努力。
- ・その仕事の喜び、大変さ、これからの目標など。

ポイント

- 卒業生や地域にゆかりのある人の話を聞き、交流することで、同じ学校、地域で学んでいることに誇りを感じることができます。

3 ゲストティーチャーと触れ合い、交流をする。

- 直接ゲストティーチャーと触れ合う。
- ・ゲストティーチャーの業績にかかわるような交流する場等を設定する(文化関係、スポーツ関係、研究関係、企業関係等)。

ポイント

- ゲストティーチャーの話などから、自分の夢や生き方に目を向けられるような教師の働き掛けが大切です。

4 ゲストティーチャーと意見交換をする。

- ・講話や交流を通して、新たに聞いてみたいことを質問する。
- ・ゲストティーチャーに感想や意見を話す。

5 まとめ

- ・各学級でゲストティーチャーの話を振り返り、感想を書いたり、感じたことや思ったことを話し合ったりする。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・夢をもとうとする気持ちをはぐくむために、ゲストティーチャー(地域の方)を迎え、話を聞いたり交流したりする場の設定や手法を工夫する。

単元名

花いっぱい作戦

第6学年

総合的な学習の時間

か  
か  
わ  
る

〈本時のねらい〉

- 自分たちで栽培した花のプランターを「花いっぱい作戦」として地域に設置する活動を通して、人のために役立つ喜びを体験する。

志教育の視点

- ・地域とのかかわりの中で社会性をはぐくむ。
- ・花いっぱい作戦を通して自分の役割や責任を自覚させる。

は  
た  
す

〈本時の活動〉（4 / 4時間）

1 「花いっぱい作戦開始式」を行う。

- 活動のねらいを再確認し、活動の見通しをもつ。
- ・ねらいと分担（リーダー、時計係等）、設置場所（商店、公共施設等）の確認。
- ・グループの目当てと作戦の発表。

ポイント

- 設置の取組の中で地域の方と積極的に交流させ、社会との結び付きを実感させることが大切です。

2 「花いっぱい作戦-1」（プランターの設置）に取り組む。

- 設置場所（商店、公共施設等）の方にあいさつ（自己紹介、ねらいの説明など）をしてから活動する。
- ・これまでの活動の経緯について説明する。
- ・水やりなど、今後自分たちがどのように管理していくか説明する。

ポイント

- ポスターを設置することにより、地域の方々に活動内容を伝えるとともに、自分たちの果たす責任について自覚を高めさせることが大切です。

3 「花いっぱい作戦-2」（ポスターの掲示）に取り組む。

- ・事前に、ねらい、花の種類、栽培の経緯などを盛り込んだポスターを作成しておく。
- ・自分たちの思いを地域の方に伝える工夫をする。

4 「花いっぱい作戦終了式」を行う。

- グループの代表が作戦結果を発表する。
- ・地域の人とのかかわりや協力した活動の仕方について発表する。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・人のために役立つ喜びを味わい、社会の一員としての自覚を高めるために、地域に貢献する活動の場を設定する。

活動名

地域の伝統工芸に触れよう

6 学年

総合的な学習の時間

### 〈単元のねらい〉

○地域の伝統工芸を支える人たちの思いや信念に触れ、働くことの意義を考えることができる。

### 志教育の視点

・職場訪問学習を通して、働くことの意義や自分の生き方を考えさせる。

### 〈活動の流れ〉

#### 1 自主研修（職場訪問）先を考え、決定する。

- ・幾つかの伝統工芸品や製品を提示し、職場訪問先を考えさせる。
- ・興味をもった工芸品や製品などから、グループで話し合い、訪問先を決める。
- ・調べたいことや聞きたいことを吟味し、訪問先への質問事項を決める。
- ・事前に質問やお願いを電話やFAXで訪問先に知らせる。
- ・自主研修後にポスターセッションをすることを知らせ、発表を意識させる。

#### ポイント

- その工芸品が作られた地域等の背景を踏まえ、観点を決めて訪問するように指導することが大切です。

#### 2 修学旅行の自主研修で職場訪問をする。

- ・訪問先で働く人に、仕事に対する思いや苦勞、喜びについてインタビューをする。
- ・働く人の姿や質問から得た情報など、仕事に対する自分の思いを自主研修ノートに記入する。

#### ポイント

- 働くことの意義や情熱、苦勞などをまとめることで、社会人、職業人としての意義や役割について気付かせることも大切です。

#### 3 訪問学習のまとめをし、発表する。

- ・職場訪問の成果を保護者や在校生に紙面やビデオ、劇など様々な方法でポスターセッションをする。

#### 4 訪問先にお礼状を書く。

- ・訪問したことに対するお礼の他、学んだことを発表会の写真などを添えて手紙に書く。

### 夢をはぐくみ志に高める手だて

・働くことの意義や自分の生き方を考えさせるために、体験を共有する場を設定するとともに、ポスターセッションを取り入れるなど、発表の方法を工夫する。

単元名

ふるさとを知り・学び・生き方を見つめよう

第6学年（学校支援地域本部事業活用事例）

総合的な学習の時間

〈単元のねらい〉

- 町には、江戸時代に商いで富と文化をもたらした偉人の歴史があり、儲けにこだわらず「地域の発展」に貢献した「生き方」に気付く。
- 地域の方々との交流と農作物栽培の体験を通して町の歴史を紐解き、郷土のすばらしさに誇りをもって、社会貢献に通じるよりよい生き方を見つける。

志教育の視点

- ・郷土のよさに気付き、社会貢献の視点で自らの生き方を考え、将来に向かって学ぼうとする意欲を高める。
- ・地域の方々と共に行う体験的な活動を通して、地域の中でよりよい関係を築こうとする気持ちをはぐくむ。
- ・地域について学ぶことで、自己の役割を自覚させる。

〈単元の流れ〉

1 町の偉人について学ぼう。



- ・町の偉人について調べ学習を行い、疑問や知りたいことを質問としてまとめる。
- ・偉人を祖先にもつ地元の有識者より商いを通じた偉人の生き方を学ぶ。
- ・偉人の生き方と現在の生活を比較し、将来の生活の在り方を考える。
- ・社会教育施設で、町の歴史と偉人のことについて学ぶ。
- ・学んだことを個人新聞にまとめ、発表を行う。

ポイント

- 地元の方を講師に迎えることで、郷土に誇りを持ち、偉人の知恵や社会奉仕の心、人としての生き方を学ぶことができます。

2 農作物を栽培しよう。



- ・地域で昔から栽培されていた農作物を調べる。
- ・地元の産業に貢献している専門家から、作物の栽培方法と作物に関する産業について学ぶ。
- ・栽培を実際に体験し、商業用作物栽培の留意点及び世話の大切さや苦勞を知る。
- ・収穫の喜びを得る。

ポイント

- 地域の方々との協働による学習で、地域の方々のかわりがより実感できます。
- 専門家の指導による農作物の栽培体験と製品化を通して、働くことの楽しさや喜び・工夫を学ぶことで、地域の中で果たすべき役割に気付くことができます。

3 収穫した作物を活用しよう。

- ・地元で加工されている製品を調べる。
- ・収穫した作物の加工方法を地域住民から教わる。
- ・収穫した作物の製品化に挑戦する。
- ・製品化によって地域の活性化に貢献していることを知る。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・将来に向かって学ぼうとする意欲を高めるとともに、自分の在り方生き方を考えさせるために、学校支援地域本部事業を活用し、地域と協働の学習を設定する。

活動名

学級花壇の整備活動

第6学年

その他の活動

### 〈活動のねらい〉

○よりよい環境をつくるために、進んで責任ある行動をとることができる。

### 志教育の視点

- ・学級花壇の整備活動など、身近な環境美化への取組を通して、自分の役割を自覚させる。

### 〈活動の流れ〉

#### 1 学級花壇の整備計画を立てる。

- 自分たちの花壇という意識をもって、春の花壇の掘り起こしや植栽から、秋の花壇の後始末までに必要な役割と分担を話し合う。
- ・春から秋まで、継続できる活動にする。
- ・できあがりイメージしながら、植栽の品種や計画を立てる。

#### 2 学級花壇の維持・管理を行う。

- 計画した役割分担を基本に活動する。
- ・2～3回の植栽，施肥及び球根掘り等
- ・毎日の水やり，随時の除草
- 維持・管理の活動状況や花壇の状態を写真にして掲示したり，朝の会などで変化を発表したりする。
- 活動時間ごとに振り返りの場を設定する。

#### ポイント

- 随時，活動を振り返らせ，頑張りを認めることで，活動意欲の維持・高揚を図りましょう。

#### 3 環境を整えることの意義を実感し実践意欲をもつ。

- 継続して役割を果たした成果を，花の開花を観察することにより実感する。
- 下学年の花壇の整備の支援や校庭の環境整備へ活動を広げる。
- 朝会や昼の放送などを活用して，環境美化の取組を発表する。

#### ポイント

- 学級花壇だけでなく，校内の環境にも目を向けさせ，改善しようとする態度を育てていきましょう。

### 夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・活動への意欲を高めるために，自分や友達の頑張ったことを伝え合う場を設定する。

は  
た  
す

単元名  
伝えよう、大切にしたい名言

第6学年  
国語科

も  
と  
め  
る

〈単元のねらい〉

- 集めた名言の中から、心に残ったものを選び、それにまつわる自分の経験や考えを簡潔に書くことができる。
- 選んだ名言について、話したいことの組み立てを工夫して話すことができる。

志教育の視点

- ・名言や名言を残した歴史上の人物の考え方や生き方を調べる学習を通して、自分の生き方を考えさせる。

〈単元の流れ〉

- 1 教材文を読んで、学習のねらいや活動の流れを知る。
  - ・教材文を学習した後に、興味をもった名言等について身近な大人に取材をしたり、調べたりする。
  - ・調べたことを基に、自分の考えをまとめ、話す学習であることを知る。
- 2 語り継がれていることわざや名言が数多くあることを知る。
  - ・知っていることわざや名言を出し合う。
  - ・教師の話聞き、名言にはそれを残した人物の生き方が深くかかわっていることを理解する。
- 3 ことわざや名言について調べる。
  - ・自分が興味・関心をもった言葉について、もっと知りたいことを身近な大人に取材したり、本やインターネットなどで調べたりする。
- 4 心に残ったことわざや名言等について発表し合う。
  - ・心に残ったことわざや名言等をあげ、その理由についても発表し合う。
- 5 自分の名言集を作る。
  - ・自分の調べたことわざや名言と友だちの発表した名言等からいくつか選んで、自分の名言集を作る。
  - ・名言集は、教室に掲示した後、家庭に持ち帰って説明し、家族からコメントをもらう。

ポイント

- エジソンなど児童がよく知っている人物の言葉を取り上げます。名言が生み出された背景や言葉に込められた思いを知ることによって言葉の意味を深くとらえさせることが大切です。

ポイント

- 身近な大人への取材活動では、なぜその言葉が心に残ったのかについて聞くようにさせ、その人の生き方に触れさせましょう。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・先人の思いや願いに触れることができるような、調べ学習や発表の場を工夫するとともに、自分の生き方まで高められるような機会（家庭との連携など）を設定する。

単元名

江戸の文化と新しい学問

第6学年

社会科

## 〈単元のねらい〉

○江戸の文化をつくり上げた人々や、国学や蘭学にかかわった人物の中から一人取り上げ、学問や文化の特色、社会に与えた影響、人物の思いをまとめることができる。

## 志教育の視点

- ・取り上げた人物の業績や生き方から、将来の生活や仕事に夢や目標をもつことの大切さに気付かせる。

## 〈単元の流れ〉

1 江戸の文化をつくり上げた人々や新しい学問に取り組んだ人物の中から、業績や生き方等についてまとめたい人物を一人選択する。

- 選んだ人物と選んだ理由について発表する。
- ・国学や蘭学、文化等にかかわった、人物の働きについて考える。

## ポイント

- 何に心をひかれ人物を選んだのかを確認することは、夢や希望を抱かせることにつながります。

2 選んだ人物についてまとめる。

- 教科書や資料集、これまでの学習ノート、持ち寄った資料等を活用する。
- 事実や果たした役割、新しい時代への動きに影響を与えたこと等をまとめる。
- 当時の社会背景等から、想像できる苦労等も含めてまとめる。

## ポイント

- 業績を成し遂げるまでの努力や苦労に気付くことで、歴史上の出来事とかかわりながら精一杯生きた生き方に目を向けさせることにつながります。

3 発表会を行う。

- 調べて分かった事実や果たした役割等について発表する。
- 人物の生き方について考えたことも発表する。

4 発表のまとめを行う。

## 夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・将来の生活や仕事の目標をもつことの大切さに気付かせるために、調べ学習を設定する。

題材名 楽譜を読もう  
楽譜を見ながら歌いましょう

第6学年  
音楽科

〈本時のねらい〉

○ハ長調の楽譜に親しみ、音程やリズムに気を付けながら視唱したり、拍の流れに乗って曲想を感じ取りながら演奏したりすることができる。

志教育の視点

- ・合唱への取組を通して、最高学年としての学級生活への期待感を高め、主体的に音楽に取り組む気持ちをはぐくむ。

〈学習の流れ〉

1 合唱曲「明日という大空」と出会う。

- ・「明日という大空」を鑑賞し、曲と出会う。
- ・鑑賞して気付いた点や歌詞に込められた思いについて発表する。
- ・この曲を選択した教師の思いを聞く。
- ・全員で朗読してみる。

ポイント

- 歌詞から想像する未来への希望を自分たちの今と重ね合わせようと考えさせることが大切です。

2 「明日という大空」を歌詞唱する。

- ・姿勢や口形など、基本的な技能に注意して歌う。
- ・前半と後半の特徴をとらえ、歌詞に込められた思いを表現して歌う。

ポイント

- 合唱により味わった一体感が学級生活にもつながることを意識させる教師の働きかけが大切です。

3 階名唱をしながら、音程やリズムに気を付ける。

- ・シンコーペーションのリズムや離れた音程に留意して歌う。
- ・楽譜を手がかりとして楽曲の特徴をとらえる。
- ・拍の流れを感じて、テンポに乗って歌う。

4 二部合唱に挑戦する。

- ・副旋律も歌ってみる。
- ・いろいろ組み合わせて二部合唱に挑戦してみる。
- ・歌詞に込められた思いを意識して歌う。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・最高学年としての学級生活への期待感を高め、主体的に音楽に取り組む気持ちをはぐくむために、ふさわしい合唱教材や指導法を工夫する。



題材名 (立体に表す)  
12年後のわたし

第6学年  
図画工作科

〈単元のねらい〉

○自分の将来やその様子を想像し、その内容が分かるように場面を工夫しながら、針金や紙粘土などの材料を使って立体に表す。

志教育の視点

・制作活動を通して、自分の将来の姿を考えさせ、夢を膨らませる。

〈単元の流れ〉

1 将来の自分や職業を想像する。

○作成シートに職業、場面、材料等をメモする。

〈準備物〉

教師・児童：空き箱、身辺材など

教師：紙粘土、板材、木片、木工用接着剤、白ボール紙、  
段ボール紙、スチール針金、アルミ針金、ペンチ等

児童：はさみ、のり、水彩用具一式

ポイント

●将来の自分について肯定的にイメージさせることが大切です。社会の中で自分ができることは何かを考えながら作ることを意識させましょう。

2 自分像を制作する。

○考えた場面に合わせて針金で体の芯を作り、粘土などを使って自分の姿を制作する。

3 背景を制作する。

○作るものに合わせて材料を選び、接着や接合、用具の使い方を工夫して周囲の様子なども作る。

ポイント

●作品について話し合う時間では、制作についての工夫だけでなく、作品カードを基に、将来の自分や想像した職業の内容も話させるなど、自分の将来に夢を膨らませるような工夫が大切です。

4 作品カードに自分像に込めた思いを記入する。

- ・この自分像にした理由
- ・制作しながら考えたこと、これからの自分ができることなど

5 作品を鑑賞する。

○自分や友人の作品について、カードを基に表した内容や工夫した点などを話し合い、表し方のよさをとらえる。

夢をはぐくみ志に高める手だて

・将来の生活や仕事に夢や目標をもたせ、社会の中で自分ができることや果たすべき役割を考えさせるために、題材の設定や指導法を工夫する。

単元名

朝の生活を見直そう

第6学年

家庭科

〈本時のねらい〉

- 朝食の大切さを理解し、栄養バランスのよい簡単なおかずを考え、朝食づくりの計画を立てる。

志教育の視点

- ・家族の一員としての自分の役割を自覚させる。

は  
た  
す

〈学習の流れ〉

1 朝食の役割について話し合う。

- 朝食のとり方を振り返り、朝食の役割について資料を基に話し合う。
- ・栄養のバランスについても理解する。

ポイント

- 家族のことを考えた朝食づくりの計画を意識できるような教師の働きかけが大切です。

2 朝食調理の実践計画を立てる。

- 自宅で取り組む朝食づくりの計画を立てる。
- ・栄養バランスがとれるよう食品の組み合わせを考える。

ポイント

- 朝食づくりを通して家族の一員としての役割を果たすとともに、学習後も家族の中で自分を生かす生活の仕方を考えさせることが大切です。

3 計画を修正する。

- 朝食の計画について班内で発表し合う。
- ・自分の計画を発表し、栄養のバランスや組み合わせ等で気付いたことを教え合い、計画の修正を行う。

4 自分の役割について考える。

- ・朝食づくりを通して、家族への感謝の念をもたせるようにする。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・家族の一員としての家庭での役割を自覚させるために、題材の設定を工夫する。

単元名 ベースボール型  
ソフトボール

第6学年  
体育科

か  
か  
わ  
る

### 〈本時のねらい〉

○得点をとるための出塁と進塁ができ、また、チームとして守備の隊形をとってアウトにする動きができる。

### 志教育の視点

- ・同じ目標に向かってチームとして活動し、かかわることを通して、よりよい人間関係を築こうとする気持ちをはぐくむ。
- ・チームのために自分の役割や責任を果たそうとする意欲を高める。

は  
た  
す

### 〈学習の流れ〉

#### 1 本時の学習課題を確認する。

○全体の学習課題を確認するとともに、チームごとに本時の目標や練習内容を話し合う。

得点をとるための出塁と進塁ができ、また、チームとして守備の隊形をとってアウトにする動きができるようにする。

- ・学習カードを活用し、チームで本時の目標、練習内容、役割分担を話し合う。特にチームの課題の解決に向けた練習を考える。

#### ポイント

- チームの課題に合った目標や練習計画を立て、意欲をもって取り組めるよう、教師がチームの実態を把握し、的確に助言することが大切です。

#### 2 チーム練習を行う。

○チームごとに課題に合わせた練習方法を取り入れる。

- ・チームで課題を解決するために、協力して練習に取り組む。
- ・お互いの役割を確認し、打球の方向に移動して捕球する練習、相手の胸の辺りにしっかりと投げる練習などを行う。

#### ポイント

- 学習カードを活用し、チームとしての活動や、個々の役割を果たすことができたかなど、観点を明確にして学習を振り返らせることが大切です。授業の始めと終わりに同じ観点を話し合わせることで、チームとしての意識を高めることができます。

#### 3 練習試合を行う。

○イニング数を少なくしたミニゲームを行う。

- ・チームで作戦を立て、役割を確認する。
- ・練習したことが出せるように声をかけ合い、協力して試合を行う。

#### 4 学習の振り返りを行う。

- ・学習カードを活用し、チームの目標に対する達成度や練習、試合の反省、改善点について話し合う。

### 夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・チームの一員として互いに支え合い、役割を自覚して目標を達成しようという意欲を高めるために、練習内容を話し合ったり、学習を振り返ったりする場や学習カードを工夫する。

単元名 I want to be a teacher  
将来の夢を紹介しよう

第6学年  
外国語活動

〈本時のねらい〉

○将来就きたい職業とその理由について紹介し合う活動を通して、自分の思いを伝え合うことの楽しさを体験する。

志教育の視点

- ・外国語活動を通して、自分や友達のよさに気付かせる。

〈学習の流れ〉

1 様々な職業の言い方を知る。

○職業絵カード等を活用する。

2 世界の国々の子どもたちの就きたい職業を知る。

- 世界の国々の子どもたちも将来に夢を描いていることを知るとともに、自分の将来就きたい職業について考える。
- ・文化的・社会的背景やその他の要因により、国や地域によって子どもたちの夢や就きたい職業が異なることを知る。

3 将来就きたい職業について尋ねたり答えたりする。

- 友達とのやり取りを通して、尋ねたり答えたりする言い方に慣れ親しむ。
- ・何になりたいかについての尋ね方や答え方を知り、自分の夢について考え、表現しようとする意欲を高める。

4 学習の振り返りをする。

ポイント

- 保護者の職業や地域の実態に応じた職業についても用意しましょう。

ポイント

- シートの活用など、先生や友達とより多く交流できるような活動を工夫しましょう。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・互いのよさに気づき、活動への意欲を高めるために、将来就きたい職業を伝え合う活動の場を設定する。

3

## 中学校の参考事例

# 指導計画例（中2）

学 期	各 科										道徳・総合的な学習の時間・特別活動		その他の活動		
	国 語	社 会	数 学	理 科	音 楽	美 術	保 健 体 育	技 術・家 庭	外 国 語	道 徳	総合的な学習の時間	特別活動			
1	「読書の幅を広げようー父のよくないー」 ○居眠の言葉「要は、どんなやり方を選ぶべきか。」について、話し合いを通して自分の考えを深め、400～600字程度の作文を書くことができる。 ◆聖書の言葉や題名について考えて、自分の考えを深めさせる。【もとめる】			「電線をくくり出すにはどうしたらよいか」 ○コイルに磁石を出し入れする実験を行う。磁石が変化すると電流が流れることなどを見いだすとともに、電磁誘導の条件や、誘導電流の向きや強さを決め、電磁を説明できることを目指す。 ◆実験や考察を通して、科学技術の進展に先人の偉業があることを知り、主体的に学ぼうとする意欲をほぐくむ。【もとめる】						「Multi Plus 1 私の夢」 ○「将来の夢」について、聞いたり読んだりして理解する。○既習事項を用いて、簡単な英文を書いたり話したりする。 ◆自分の将来についてめざせる意欲を高め、自己理解や他者理解を深めさせる。【もとめる】			「ふるさとの伝統・文化を伝えよう」 ○地域の学習を通して、地脈や伝統、文化への興味・関心を高めるとともに、ふるさとのよさを知り、郷土を大切にしたい意欲をもつ。 ○地域や伝統を守り伝える地域の方の生き方を考える。 ◆地域の人々とのかわりを通して、地域を見つめさせ、地域の中で自分の果たすべき役割や責任について考えさせる。【もとめる】	「働くこと」 ○身証で働く人々の職業や仕事に対する考えや働くことへの関心を高める。 ◆身証から、自分が求めている生き方を考え、自分自身を高めようとする意欲を育む。 【もとめる】	○集団の一員としてよりよりに継続的に課題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。 ◆委員会活動を通して、自分の役割を自覚し責任を果たそうとする意欲をほぐくむ。【はたす】
2					「日本の伝統音楽の響きと風景」 ○和楽器の響きと「音色」を基に結び付け、イメージを十分に膨らませながら創作をする。 ◆創作活動を通して、楽器への興味や主体的に取り組もうとする意欲をほぐくむ。【もとめる】							「先輩に学ぶ会」 ○社会で活躍する先輩や大学生の先輩の話を聞くことにより、夢や希望をもち、将来の自分の生き方を考え、実現に向けて努力しようとする態度を育てる。 ◆先輩の夢を抱いた経験や、努力を重ねてきたことにより、自己実現に向けて努力しようとする意欲をほぐくむ。【もとめる】	「先輩に学ぶ会」 ○社会で活躍する先輩や大学生の先輩の話を聞くことにより、夢や希望をもち、将来の自分の生き方を考え、実現に向けて努力しようとする態度を育てる。 ◆先輩の夢を抱いた経験や、努力を重ねてきたことにより、自己実現に向けて努力しようとする意欲をほぐくむ。【もとめる】		
3														「人々のために生きる」 ○働くことの意義を自覚し、連綿と社会や人のために福社に貢献しようとする心構えを育てる。 ◆道下医師の生き方について考える。自己の在り方、生き方について考える。【もとめる】	

主題名 人々のために

資料名 われ、ここに生きる

第2学年

道徳の時間

### 〈本時のねらい〉

○働くことの意義を自覚し、進んで社会や人のために尽くし、公共の福祉に貢献しようとする心情を育てる。

### 志教育の視点

- ・道下医師の生き方について考えることを通して、自己の在り方生き方について考えさせる。

### 〈学習の流れ〉

#### 1 職場体験を想起する。

- ・職場体験学習の感想、職場の方々からいただいた質問に対する回答を読み、働くことについてそのとき考えたことを想起する。

#### 2 道下俊一医師の生き方について考える。

- 資料「われ、ここに生きる」を読み、考える。
- ・道下医師が霧多布で診療しながら考えていたことを推測する。
- ・道下医師が霧多布にとどまることを決心した気持ちを考える。

#### 3 自分の生き方について考える。

- これからどんな生き方をしたいと思うか考える。
- ・ノートに記入し、自分の考えをまとめる。
- ・机間指導をしながら、生徒の考えを見取り、何人かに発表させる。

#### 4 身近な働く人の話を聞く。

- 職場体験でお世話になった方々の話（録音）を聞く。
- ・地域のために働いている人や、社会貢献を考えている方々に事前に依頼しておく。
- ・身近な働く人の話に代えて、生徒作文を使うことも考えられる。

#### ポイント

- 霧多布に残るまでの道下医師の心の葛藤を考えさせることにより、自己と社会のかかわりを考え、社会へ貢献することの大切さやすばらしさに気付かせることが重要です。

#### ポイント

- 道下医師の生き方から、これからの自分の生き方について、自分の言葉で考えさせることが大切です。

### 夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・自己の在り方生き方を考えさせるために、考えをまとめたり、深めたりする方法を工夫する。

題材名

働くこと

第2学年

学級活動

〈本時のねらい〉

○身近で働く人々の職業や仕事に対する考え方などを知り、職業や働くことへの関心を高める。

も  
と  
め  
る

志教育の視点

・身近で働く人の話から、自分の在り方生き方をもとめようとする気持ちを高める。

〈活動の流れ〉

1 働く人（ゲストティーチャー）の1日について知る。

- ゲストティーチャーとして、職種の異なる複数の方から、実際の仕事の様子や職業に対する思いを聞く。
- ・職場での1日について
  - ・それぞれの方の苦勞と生き甲斐について

ポイント

●保護者、地域の方等、生徒とかかわりのある身近な人の話が効果的です。多様な職種のゲストティーチャーに話してもらうことで、職業による違いに気付かせることができます。

2 働くことの意義について考える。

- ゲストティーチャーの話を参考にして、働くことの意義を考える。
- ・観点を明確にして考えをまとめる時間をとる。

3 働くことについて考えを交流する。

- ・意見交換を通して、多様な考え方があることや自分の生き方とかかわっていることに気が付く。
- ・グループで、自分の考えた働くことの意義について発表し、意見交流を行う。
- ・各グループにゲストティーチャーを配置し、適宜、質疑応答に加わってもらう。

ポイント

●将来の職業を決めることではなく、働く上で今から培うべきことについて考え、自分の考えをまとめさせます。ゲストティーチャーの感想を聞くことも効果的です。

4 授業の振り返りを行う。

- ・本時の授業を振り返り、働くことについて学んだことをまとめる。
- ・ゲストティーチャーから感想を話してもらう。

夢をはぐくみ志に高める手だて

・自分の在り方生き方を求めようとする気持ちを高めるために、身近で働く人の話を聞く場を設定する。



題材名

先輩に学ぶ会

第2学年

学年集会(学級活動)

〈本時のねらい〉

○社会で活躍する先輩や大学生の先輩の話聞くことにより、夢や希望をもち、将来の自分の生き方を考え、実現に向けて努力しようとする態度を育てる。

志教育の視点

- ・先輩方の夢を抱いた経緯や、志をもち続け、努力を重ねてきたことを知ることにより、夢を志に高め、自己実現に向けて努力しようとする気持ちをはぐくむ。

〈活動の流れ〉(2時間扱い)

- 1 先輩に学ぶ会の趣旨を知る。
  - ・先輩方を紹介し、本時への期待を高める。
- 2 先輩の話聞く。
  - (1) 大学生の先輩の話
    - ・中学生の頃の夢、自分が今の大学を選んだ理由、将来の夢
    - ・中学校時の進路選択で考えたこと
    - ・中学校、高校で進路実現に向けて努力したこと
    - ・中学生へのアドバイス
  - (2) 社会人の先輩の話
    - ・今の仕事について
    - ・中学生の頃の夢、中・高校で進路実現に向けて努力したこと
    - ・仕事をしているの大変さや喜び
    - ・これまでの経験から中学生へのアドバイス
- 3 各ブースに分かれ、先輩と意見交換をする。
  - 直接先輩と交流する。
    - ・4～6箇所程度のブースを設定し、交流する場を設定する。
    - ・時間帯を2部制にし、一人2箇所回れるようにする。
    - ・先輩は、代表で講話をする方2名と、各ブースで話をしてもらう方2～4名をお願いする。
- 4 感想発表
  - ・代表生徒が御礼も含め、感想発表を行う。
- 5 まとめ
  - ・各学級に戻って学習の振り返りを行う。

ポイント

- 先輩については、社会人、大学生など多様な選択肢を考えられるように配慮することが大切です。

ポイント

- 卒業生と交流することで、先輩の話を身近にとらえ、夢や志をもち、自分もこれから努力すればできるという自己実現の可能性を感じさせることができます。

ポイント

- 学級でのまとめの時間では、この活動を通して自分の考えの変容した点や、これからの生活について考えさせることが大切です。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・夢を志に高め、自己実現に向けて努力しようとする気持ちをはぐくむために、先輩の話聞いたり交流したりする場の設定や手法を工夫する。

もつめる

単元名

ふるさとの伝統・文化を伝えよう

第2学年（学校支援地域本部事業活用事例）

総合的な学習の時間

〈単元のねらい〉

- 地域の学習を通して、地域や伝統、文化への興味・関心を高めるとともに、ふるさとのよさを知り、郷土を大切にしたい意欲をもつ。
- 地域や伝統を守り伝える地域の方の生き方に触れ、自己の生き方を考える。

志教育の視点

- ・地域の人々とのかかわりを通して、自己を見つめさせ、地域の中での自分の果たすべき役割や責任について考えさせる。

〈本時の活動〉

1 ふるさと学習の意義、テーマについて考える。

- ふるさとにはどんな伝統や文化があるか、どんな達人がいるかを調べ、テーマについて考える。

2 地域の文化の伝承者へインタビューを行う。

- 地域の文化を伝承している方の思い、願いを聞く。

3 ふるさと学習の活動内容を考える。

- 何のためにどんな活動をするのかを話し合う。
  - ・学んだことを地域に発信するところまで見通して、活動内容を考えさせる。講座制とし、どんな講座が必要かも考える。
  - ・講座ごとの活動目標、活動の約束を考える。

4 地域の文化を体験する。

- 地域に伝わる伝統的活動や文化的活動を体験し、地域のよさを知る。
- ・地域の方々（学校支援ボランティア）を講師に招き、いくつかの講座に分かれ、体験活動を行う。
- ・発表会等で展示する作品を作成する。
- ・友達や後輩に地域の伝統や文化で伝えたい内容を考える。



5 学習の成果を地域に発信する。

- 文化祭や発表会等で地域の伝統や文化のよさ、伝承する人たちの思い、学んだことをまとめ発表する。
- ・地域を見つめ直すきっかけとなるよう、地域のよさを伝える。

ポイント

- ふるさと学習の意義、活動のねらいを明確にすることが、地域の中での自己の役割を自覚することにつながります。

ポイント

- 地域の方々の話や支援から、その人に生き方や考え方に触れることができます。

ポイント

- 自分たちが学んだ伝統や文化について地域に発信することが、地域に貢献する活動の一端を担うことになることを意識させることが大切です。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・地域の中で自分の果たすべき役割や責任を考えさせるために、学校支援ボランティアを活用し、交流活動や体験活動を含むふるさとを学ぶ場を設定する。

単元名

働くことの意義を見つめよう

第2学年

総合的な学習の時間

〈活動のねらい〉

- 「職場体験学習」での体験発表会を通して、それぞれの職業が社会の中で果たしている役割に気付き、働くことの意義を考える。

志教育の視点

- ・ 集団や社会の一員としての役割と責任を自覚させる。
- ・ 職場体験学習を通して、自分の生き方を考えさせる。

〈活動の流れ〉（2時間扱い）

1 「職場体験活動」を振り返る。

- 一人一人の学びを幾つかの観点からまとめる。

（視点の例）

- ・ 体験を通して学んだ仕事の楽しさ厳しさ
- ・ 職場の方の仕事に取り組む姿勢
- ・ 仕事や職業に対する思い 等

ポイント

- 感想発表にとどまらないよう視点を示してまとめさせましょう。

2 学年（学級）単位で発表会を行う。

- 異業種の職場体験をした生徒でグループ編成し、学習の成果を話し合う。

- ・ 互いの成果を比較することを通して、学びの内容を広げたり、成果を共有したりする。

ポイント

- 職場体験先からのメッセージについては、事前に十分な打合せを行い、生徒のこれからの生き方について期待することや社会の一員としての意識を高めることについて触れてもらうことが大切です。

3 職場体験先から寄せられたビデオレターやメッセージを見る。

- ビデオ撮影、メッセージから、自分たちの働き方が職場でどのように受け入れられていたのか知る。

4 「職場体験先へのお礼状」を書くとともに、「10年後の自分への手紙」などのテーマを決め、考えをまとめる。

- どんな社会人になりたいか、目標達成のためにどんな努力をしていくかなどのテーマに基づき、「職場体験学習」の成果を振り返る。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・ 役割と責任を自覚させ、自分の生き方を考えさせるために、生徒が互いの体験を共有する場を設定する。

まとめる

はたす

活動名

委員会活動

全学年

その他の活動

### 〈活動のねらい〉

○集団の一員としてよりよい学校生活づくりに継続的に参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。

### 志教育の視点

・委員会活動を通して、自分の役割を自覚し責任を果たそうとする気持ちをはぐくむ。

### 〈活動の流れ〉

- 1 5月の反省を踏まえ、6月の目標について話し合う。
  - 生徒会目標に係る活動、委員会独自の活動を確認する。
  - 5月の反省、6月の活動内容を基に6月の目標を決める。
  - 委員会としての具体的な働きかけについて話し合い、6月の活動計画を立てる。
  - 個人の活動目標を設定する。
    - ・6月の目標を達成するために、各学級でどのような働きかけを行っていくか考え、活動目標を決める。
- 2 委員会の活動計画・個人の活動目標に基づいて実践に取り組む。
  - 学級ごとに委員会の目標や取組について説明をし、継続的に呼びかけや点検を行う。
- 3 活動の振り返りを行う。
  - 委員会活動振り返りシートを記入する。
    - ・6月の目標についての学級の達成度、自己評価等を振り返る。
  - 委員会の6月の目標についての反省、改善点を発表する。
    - ・学級ごとに目標に対する達成度について発表する。
    - ・よい取組や達成できなかった点について発表する。達成できなかった点については、その理由や改善点についても発表し、7月の活動に生かす。

#### ポイント

●PDCAサイクルを設定することにより、目標設定、計画、実践、評価・改善を意識して継続的に委員会活動に取りむことができるようにすることが大切です。

#### ポイント

●前月の反省を踏まえ、委員会として共通に取り組むべきことや学級での自分の役割を明確にすることで、活動意欲を高めていくことが大切です。また、継続的な取組には、生徒の頑張りを教師が認め励ますことも必要です。

### 夢をはぐくみ志に高める手だて

・自分の役割を自覚し責任を果たそうとする気持ちをはぐくむために、PDCAサイクルの設定や活動の振り返り等の手法を工夫する。

は  
た  
す

単元名 読書の幅を広げよう  
父のようにはなりたくない

第2学年  
国語科

〈本時のねらい〉

○吾郎の言葉「要は、どんなやり方を選ぶかさ。」について、話し合いを通して自分の考えを深め、400～600字程度の作文を書くことができる。

志教育の視点

- ・吾郎の言葉や題名について考えることを通して、自分の生き方について考えを深めさせる。

〈学習の流れ〉

1 親子の心情の変化を確認する。

- 前時までに学習した、場面の移り変わりや親子の心情の変化を確認する。
- ・ノートにまとめたキーワードを手がかりに簡潔に振り返る。

2 「要は、どんなやり方を選ぶかさ。」という吾郎の言葉に込められた思いを話し合う。

- 親子の心情の変化を踏まえ、吾郎の言葉の意味について意見交換をする（ペア学習から全体での意見交換へ）。
- ・意見交換の中で、新たに考えたことはノートに赤ペンでメモする。

ポイント

- 吾郎の言葉についての意見交換を通して「自分らしく生きること」「よりよく生きること」についても考えを深めることができるよう教師の働きかけが大切です。

3 意見交換を踏まえて、「父のようにはなりたくない」という題名について400～600字程度の作文を書く。

- 吾郎の言葉に込められた思いを踏まえ、なぜ「父のようにはなりたくない」という題名なのかについて、自分の考えをまとめる。
- 以下の視点を参考に自分の考えをまとめる。
  - ・描かれている親子の姿、会話から考えさせられたこと
  - ・自分の経験に基づいて、考えたこと

ポイント

- 視点を示すことで自分のこれまでの生活や家族とのかかわりを振り返り、自分のこれからの生き方について意識を高めていくことが大切です。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・題材を通して自分の生き方について考えを深めさせるために、話し合い活動や作文等の指導法を工夫する。

単元名

電流をつくり出すには どうしたらよいか

第2学年

理科

も  
と  
め  
る

〈単元のねらい〉

○コイルに磁石を出し入れする実験を行い、コイル内部の磁界が変化するとき電流が流れることなどを見いだすとともに、電磁誘導の条件や、誘導電流の向きや強さを決める条件を説明できる。また、発電機が電磁誘導を利用したものであることを理解する。

志教育の視点

- ・ 実験や考察を通して、科学技術の進展に先人の偉業があることを知り、主体的に学ぼうとする意欲をはぐくむ。

〈単元の流れ〉

1 先人の偉業を知る。

- ・ 1831年ファラデーは、磁石とコイルで電流が流れることを実証したことを知らせる。
- ・ 演示実験で導入。

2 実験を通して、規則性を見つける。

- 実験を行い、その規則性について考える。
- ・ コイルに磁石を出し入れするときの速さ
- ・ コイルの巻数と流れる電流の関係

3 ファラデーの偉業について、どう受けとめたか発表する。

- ・ 乾電池も電源コンセントもなしで電流を流すことができる。
- ・ もし自分が1831年にいたら自分にもできたかも知れない。

4 ファラデーの偉業が身近なところで生かされている例を説明する。

- ・ 自転車のダイナモ、ダムの発電タービン等

ポイント

- 問題を見だし仮説を立てさせたり、実験において、主体的に学習に取り組み、自ら問題を解決する学び方を身に付けさせたりすることが大切です。

ポイント

- 学習したことが身近なところで生かされていることを実感させ、科学技術への興味・関心を一層高めるようにすることが大切です。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・ 主体的に学ぼうとする意欲をはぐくむために、先人の偉業に触れる学習を取り入れる。

題材名 日本の伝統音楽の楽しみ  
和楽器の響きと風景

第2学年  
音楽科

〈本時のねらい〉

○和楽器の響きと日本的な風景を「音色」を基に結び付け、イメージを十分に膨らませながら創作をする。

志教育の視点

- ・創作活動を通して、和楽器への興味を深め、主体的に伝統音楽に取り組もうとする気持ちをほぐくむ。

〈学習の流れ〉

- 1 和楽器の歴史や当時の生活と和楽器の関係を知る。
  - ・和楽器の歴史や当時の生活との関係等を理解させ、伝統音楽を学ぶ意義をつかませる。
- 2 和楽器の奏法について、主なものを試してみる。
  - ・和楽器の主な奏法について、「音色」を観点に鑑賞する。
  - ・気になった奏法を中心に、実際に試してみる。
  - ※和楽器の種類については、各学校の実態に応じて扱う。
- 3 和楽器の奏法と日本の風景を結び付けていく。
  - ・気に入った奏法で出る「音色」が、日本のどんな風景を醸し出しているかをイメージする。
  - ・日本の風景に合う「音色」が出る奏法を見つける。
- 4 自分たちのイメージする風景をテーマとした音楽を創作する。
  - ・どのような奏法を使うか、構成や分担を考える。
  - ・奏法から生まれる「音色」を基に、つながりや組み合わせを考えて創作する。
  - ・音の響き、余韻なども考えながら練習する。
- 5 創作した音楽に、日本の風景をイメージした題名を付けて発表する。
  - ・創作した曲や題名に込めた思いを発表する。
  - ・感じたことを発表したり、友達の感想を聞いたりする。

ポイント

- 和楽器の歴史を踏まえ、その音色を基に一人一人の思いや意図、イメージをもたせることが大切です。

ポイント

- 音色から風景を想像したり、風景から音色を想像したりすることで、和楽器の音色に対するイメージを広げさせましょう。

ポイント

- 日本の風景に関係した題名を付ける活動を通して、和楽器での創作活動への興味を一層高めることが大切です。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・和楽器への興味を深め、主体的に伝統音楽に取り組もうとする気持ちをほぐくむために、和楽器の歴史等を理解させるとともに、思いや意図を大切に創作活動を設定する。

単元名

Multi Plus 1 私の夢

第2学年

外国語科

かかわる

もとめる

### 〈単元のねらい〉

- 「将来の夢」について、聞いたり読んだりして理解する。
- 既習事項を用い、簡単な英文を書いたり話したりする。

### 志教育の視点

- ・自分の将来についての関心・意欲を高めさせる。
- ・発表を通して、自己理解や他者理解を深めさせる。

### 〈単元の流れ〉

- 1 将来の夢や職業について考え、「私の夢」(My Dream) というタイトルで簡単な英文を書く。
  - ・「将来の夢」についての教科書のモデル文を読んだり、ALTの夢を聞いたりして、内容を理解する。
  - ・「Tool Box」の語句を参考にして将来の夢や職業について簡単な英文を使って話す。
  - ・「私の夢」(My Dream) というタイトルで簡単な英文を書く。
- 2 「私の夢」(My Dream) について発表したり、友人の夢について聞いたりする。
  - ・自分で書いた英文を基に、みんなの前でスピーチをする。
  - ・友達の夢やなりたい職業について興味をもって聞く。
- 3 スピーチを聞いて感じたことについてペアやグループで話し合う。
  - ・質問したり、答えたりする。
  - ・お互いに感想を述べ合う。

#### ポイント

- モデル文を読んだり、ALTの夢を聞いたりして、自分の将来について関心高めさせるようにしましょう。

#### ポイント

- 進んでいる生徒には、単に夢に終わらせることなく「何のために」を盛り込ませましょう。さらに、そのために努力しなければならないことにも触れさせましょう。

#### ポイント

- 友達の夢を聞いて感じたことを話し合い認め合うことの大切さを意識させましょう。

### 夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・将来について考えさせるために、自分の夢や職業について簡単な英語で話したり、友達の夢を聞いたりする場を設定する。



4

## 高等学校の参考事例

## 指導計画の作成（高等学校の例）

（第2学年）

自校の教育内容を「志教育」の視点で見直しましょう

	1 学期	2 学期	3 学期
国語総合	<p><b>現代文 評論『自分・この不思議な存在』</b> ○自己の在り方について見つめ直し、自分とはどのような存在か、自分と他者との関係について考える。 【かかわる・もとめる】</p>	<p><b>古典 漢文『論語』</b> ○古代中国の思想に触れ、孔子・孟子の教えを理解し、現代の日本人の生活の中に生きる教えについて気づき、自分の考えをもつ。 【かかわる・はたす】</p>	<p><b>現代文 小説『夏の花』</b> ○被爆当時の状況と主人公の心情を的確に読み取り、人間の生きる姿を見つめ、人間の在り方について考えを深める。 【かかわる・はたす】</p>
地理B	<p><b>『自然環境』</b> ○世界の自然環境の特色を大観させる学習を通して、日本の自然環境から自然災害が起こりやすい地域性を理解させるとともに、災害時の自分の果たすべき役割について考える。 【はたす】</p>	<p><b>『市町村規模の地域』</b> ○日常の生活圏、行動圏について、地域の特徴を多面的・多角的に調査することを通して、地域の課題を意識し解決に向けて、自分の果たすべき役割について考える。 【かかわる・はたす】</p>	<p><b>『人口・食料問題の地域性』</b> ○人口・食料問題の解決には地域性を踏まえた国際協力が効果的であることを理解させ、グローバル社会に生きる一員として自分の果たすべき役割について考える。 【かかわる・はたす】</p>
世界史B	<p><b>『イスラーム世界の形成と発展』</b> ○イスラーム教の特質を理解し、その文化圏とのかかわりの中で、交流が図られた歴史を知ることにより、宗教間の対立等、現代の国際問題を把握し、解決に向けて果たすべき役割を自覚する。 【かかわる・はたす】</p>	<p><b>『欧米における近代社会の成長』</b> ○米独立革命の背景・内容・結果を理解することにより、自由・平等を根拠とした民主主義国家の形成を学び、民主主義や合衆国を形成した精神について考える。 【はたす・もとめる】</p>	<p><b>『現代の世界』</b> ○冷戦後、グローバル化した世界において、各国の相互依存が強まっていることを理解し、その中で地域紛争を含む地球規模での課題を考察し、今後の平和な国際社会の発展や次世代に残すべき持続可能な社会について考える。 【かかわる・はたす】</p>
日本史B	<p><b>『室町文化』</b> ○公家文化と武家文化の融合、中国文化の影響等の上に室町文化が成立し、文化の地方へ普及していったことを理解するとともに、伝統文化として現在に継承されてきたものの例を調べ、発表し合う。 【かかわる】</p>	<p><b>『第一次世界大戦』</b> ○第一次世界大戦後の国際的な協調体制の成立が日本の外交政策に対する影響の考察を通して、国際社会の中で自分が果たすべき役割を考える。 【かかわる・はたす・もとめる】</p>	<p><b>『現代の日本と世界』</b> ○地球規模での環境問題、食糧問題等の解決に向けて日本が果たすべき役割について考察するとともに、国際社会の一員として自分がこれらの課題に取り組む役割について考える。 【はたす・もとめる】</p>
現代社会	<p><b>『現代社会と青年の生き方』</b> ○青年期のもつ意義や自己形成の課題について考えるとともに、将来の職業と生活を視野に入れながら青年としての生き方について自覚を深める。 【もとめる・はたす】</p>	<p><b>『自立した消費者としての道』</b> ○消費者問題の学習を通して、消費者としての社会的責任について考え、市場経済の主権者として自立した消費者になることの自覚を深める。 【かかわる・はたす】</p>	<p><b>『人種・民族問題』</b> ○人種・民族問題の学習を通して、それぞれの固有の文化を尊重する寛容の態度を養うとともに、主体的に国際社会の課題について考えようとする自覚を深める。 【かかわる・はたす】</p>
数学Ⅱ			
物理Ⅰ	<p><b>『電気と生活』</b> ○生活の中の電気製品、通信機器、鉄道などの輸送手段の性質を知り、科学的な思考力や判断力を育成する。 【かかわる・はたす】</p>		<p><b>『エネルギーの変換と保存』</b> ○互いに他のエネルギーに変換してもエネルギーの総量は保存される。しかし熱現象は不可逆であり地球温暖化等を含め日常生活のエネルギーの利用の仕方について考える。 【かかわる・はたす】</p>
化学Ⅰ	<p><b>『物質と人間生活』</b> ○化学の成果が人間生活を豊かにしたことを、具体例を通して化学の成果を調べさせ、それらがいかにか人間生活を豊かにしたのか気付く。 【かかわる・はたす】</p>	<p><b>『酸化と還元』</b> ○代表的な物質の電気分解や、電池の仕組み、実用電池にも触れながら化学エネルギーについても理解する。 【かかわる・はたす】</p>	
生物Ⅰ		<p><b>『植物の生活と環境』</b> ○植物における水分の吸収、移動や光合成と環境との関係を理解する。 【かかわる・はたす】</p>	

## 指導計画の作成（高等学校の例）

（第2学年）

自校の教育内容を「志教育」の視点で見直しましょう

	1学期	2学期	3学期
地学Ⅰ		<p>『大気・海洋と宇宙の構成に関する探究活動』</p> <p>○身近な気象現象の観察、観測や気象衛星画像と大気の大循環などについての分析を通して地球環境を理解する。 【かかわる・はたす】</p>	<p>『大気の熱収支と大気の運動』</p> <p>○大気及び海洋の運動が太陽放射エネルギーを原動力として起きていることを地球規模で扱い、地球温暖化やオゾン層の破壊などの地球環境問題に触れる。 【はたす・もとめる】</p>
保健体育	<p>『領域：体づくり運動』</p> <p>○運動を通して仲間と進んで協力したり、仲間が安心して活動できるように緊張をほぐし、積極的に課題にチャレンジすることによって、自己と仲間の心や体に及ぼす影響を考える。 【かかわる】</p>	<p>『領域：水泳（十保健）』</p> <p>○安全への理解を一層深めるため、着衣泳を体験し、着衣のまま水に落ちた場合の対処の仕方を学ぶと同時に、科目保健で既習している心肺蘇生法を復習し、自他の生命の大切さを考える。 【かかわる・はたす】</p>	<p>『領域：球技』</p> <p>○作戦や状況に応じた技能及び仲間と連携した動きを高め、役割分担し責任をもち主体的に取り組む。仲間の発言を尊重したり、体調や環境の変化に注意し自他の健康維持と安全保持に努める。 【かかわる・はたす】</p>
英語Ⅱ	<p>Lesson1:Big in China—Ai Fukuhara</p> <p>○福原愛の中国での活躍と人気、また彼女が中国で人々から受け入れられている様子について読む。 【かかわる・もとめる】</p>	<p>Lesson7:The Only Way to See Mt.Everest</p> <p>○「エベレストが最も美しく見えるポイント」への登山に挑戦した著者。困難を克服して1つのことをやり遂げるという実体験の達成感について読む。 【かかわる・はたす】</p>	<p>Lesson9:Staying Home in Mississippi</p> <p>○映画『カラーパープル』の原作者であるアリス・ウォーカーが黒人として差別された人生について学んでいく。 【もとめる】</p>
家庭総合	<p>『人の一生と家族・家庭』</p> <p>○人の一生を生涯発達の見点でとらえ、家族・家庭の意義等について理解し、家族の一員としての役割を果たし、家庭を築くことの重要性を認識するとともに、各自の生活設計を考える。 【かかわる・はたす・もとめる】</p>	<p>『子どもの発達と保育・福祉』『高齢者の生活と福祉』</p> <p>○子どもや高齢者との触れ合いや交流の機会をもち、子どもや高齢者について理解させるとともに、家族及び地域や社会の果たす役割について認識する。 【かかわる・はたす・もとめる】</p>	<p>『消費生活と資源・環境』</p> <p>○家庭の経済生活や、自立した消費者の権利と責任について具体的な事例を通して理解する。また、消費生活の課題について認識し、資源や環境に配慮して、責任をもって行動できるようにする。 【はたす・もとめる】</p>
情報B	<p>『問題解決とコンピュータの活用』</p> <p>○日常ごく普通に決めているような事柄にも問題解決の構造があることを理解するとともに、仮想模擬店を文化祭に出店するまでの問題点の整理をKJ法を用いて行う。 【かかわる・はたす】</p>	<p>『問題のモデル化とコンピュータを活用した解決』</p> <p>○情報の蓄積・管理とデータベースの設計には、データの入力や処理の効率、データの整合性や一貫性の維持、記憶領域の利用効率など様々な観点があることを理解する。 【はたす】</p>	<p>『情報社会を支える情報技術』</p> <p>○情報化の「影」の面について、身の回りのテーマを扱い、どのように克服していったらよいか考える。 【はたす・もとめる】</p>
学習の総合的時間	<p>『職業人インタビュー』</p> <p>○様々な職種の人から、希望する職業に関する話を聞き、将来の進路について考える。 【かかわる・もとめる】</p>	<p>『インターンシップ・上級学校訪問』</p> <p>○現在の進路希望から、インターンシップの実施や上級学校の訪問により、進路先についての理解を深めるとともに将来の職業について考える。 【かかわる・もとめる】</p>	<p>『学習成果発表会』</p> <p>○1年間、学習してきた成果の発表を通して、発表方法や態度を養い、共に学び合う機会により相互理解を深め、学習意欲の向上を図る。 【かかわる・もとめる・はたす】</p>
特別活動	<p>『ホームルーム活動（学校祭企画立案）』</p> <p>○地域に学校を公開することを踏まえ、学校祭にホームルームとして参加する催しの企画、立案、役割分担を通して、互いに協力することの大切さを学ぶ。 【かかわる・もとめる】</p>	<p>『ホームルーム活動（学校祭実施）』</p> <p>○実施に際して、互いの役割を理解し、責任を果たすことの大切さを学ぶ。 ○地域に公開するにあたり、将来社会人として必要な振る舞いについて学ぶ。 【かかわる・もとめる・はたす】</p>	<p>『ホームルーム活動（振り返り）』</p> <p>○学校祭を振り返り、相互理解の深まりを認識させ、反省点を考える。 ○地域の協力に感謝し、今後も協力していただけるような工夫を考える。 【かかわる・もとめる・はたす】</p>
その他	<p>『朝の読書活動』</p> <p>○静かな雰囲気の中で、様々な分野の本を読むことにより、いろいろな考え方を知り、自らの考えを深める。 【はたす・もとめる】</p>	<p>『清掃活動』</p> <p>○限られた時間の中で、清掃ポイントを把握し、効率的にかつ協力して分担区域の清掃を行う。 【かかわる・もとめる】</p>	<p>『部活動』</p> <p>○3年生として、また、所属部の中での自分の役割を果たしながら、他の部員と協力して目標達成を目指す。 【かかわる・はたす】</p>

単元名

物質と人間生活

第2学年

理科 化学 I

### 〈単元のねらい〉

○化学の成果が人間生活を豊かにしたことを具体事例から学習し、科学技術の成果と今後の課題についての視点を養う。

### 志教育の視点

・科学技術への興味・関心を高めるとともに、人類の持続可能な発展という観点から、将来において果たすべき役割を自覚させる。

### 〈単元の流れ〉

#### 1 化学とはどのような学問なのか理解する。

・物質の構造や性質について、先人の科学者たちが研究を極め、原子や分子のレベルの学問であることを理解する。

#### 2 化学の発展とその成果を理解する。

・錬金術、不老不死の薬の合成から発展してきた化学史について理解する。  
・当時の環境を考えるとともに、現代の化学の成果と人間生活について具体例を取り上げることにより理解を深める。

#### ポイント

●人間の生活が化学と密接にかかわっていることやこれからもかかわっていくことを理解させることが大切です。

#### 3 化学の発展がもたらした負の部分についても知る。

・公害と言われた化学物質による汚染やダイオキシンの害など、化学がもたらした負の部分も考えさせる。  
・環境に与える負荷について理解する。

#### 4 これからの化学の役割について考える。

・身の回りの物質や化学反応を正しく理解することの重要性を認識する。  
・これからの時代の豊かさや環境保全への貢献等、化学技術の使命を理解する。

#### ポイント

●化学の発展の光と影の両面に気付かせることにより、果たすべき役割を考えさせることが大切です。

### 夢をはぐくみ志に高める手だて

・科学技術への興味・関心を高め、将来において果たすべき役割について自覚させるために、化学の発展がもたらした成果と負の部分を考える場を設定する。

もつめる

はたす

単元名 人口・食料問題の地域性  
コートジボワールを事例として

第2学年  
地理歴史科 地理B

### 〈本時のねらい〉

○コートジボワールを事例地域として、人口・食料問題を追究し、その解決には地域性を踏まえた国際協力が必要であることを考察する。

### 志教育の視点

- ・人口、食料問題の学習を通して、グローバル社会に生きる一員として、自己の果たすべき役割について考え、具体的な行動への意欲をもたせる。

### 〈学習の流れ〉

- 1 コートジボワールを事例に、発展途上国の人口・食料問題について考えることを確認する。  
(参考とする該当国基礎データ)  
・位置、自然環境  
・公用語、略史(フランス植民地)  
・一人あたりのGDP、貿易統計など
- 2 コートジボワールの人口構成の特徴から、発展途上国の人口爆発の問題について理解する。  
・人口の推移について考える。  
・人口ピラミッドを作図し考える。
- 3 コートジボワールの農業の特徴から、モノカルチュア経済について理解する。  
・カカオのプランテーションと独立後の小規模農業経営について考える。  
・アグリビジネスによる支配について理解する。
- 4 先進国の食料援助の功罪を整理し、地域性を踏まえた国際協力の必要性を理解する。  
・食料事情が改善する一方、国内の食料生産の発展を妨げる場合もあることを理解する。
- 5 本時の学習内容やフェアトレードの資料を基にグループごとに国際協力や支援の在り方について考察し、まとめ、発表する。

#### ポイント

- 人口・食料問題など地球規模の課題は、地域により現れ方が異なり、その解決には地域性を踏まえた国際協力が必要となるという見方や考え方ができるように指導することが大切です。

#### ポイント

- グローバル社会に生きる一員として自己の果たすべき役割の観点から考えさせ、発表させることが大切です。

### 夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・社会参画の意識と具体的な行動への意欲をもたせるよう “Think Globally, Act Locally”の視点から国際協力や支援の在り方を考え、意見をまとめる活動を設定する。

も  
つ  
め  
る

は  
た  
す

単元名 第三世界の多元化と地域紛争  
多発する地域紛争と新たな国際協力の模索

第2学年  
地理歴史科 世界史B

かわる

### 〈単元のねらい〉

- 世界各地で多発する地域紛争について、その係争地域・係争国・係争の原因と理由や国際平和に寄与する機関を理解し、問題点と対応策を考える。
- 学習したことを基にプレゼンテーションすることができるようにする。

### 志教育の視点

- ・ 自他の考えを比較させ、他者の価値観を理解させる。
- ・ 平和で持続可能な社会を建設するため、次世代まで見通した方策を考え、果たすべき役割を認識させる。

はたす

### 〈単元の流れ〉

- 1 地域紛争について調べる。(個別)
  - ・ 地域紛争が起きている係争地を調べる。
  - ・ その中から、自分が興味・関心をもった地域紛争を3つ選び、それぞれに課題があることを確認する。
- 2 地域紛争について理解を深める。(グループ)
  - ・ グループの中で、個人の持ち寄った課題を発表し合い、共通で研究するものを1つ決定する。
  - ・ 紛争の詳細についてグループで調べ、まとめる。  
※紛争の歴史、背景、現状、国際機関の介入、解決に協力している国家など
  - ・ 紛争の問題点を、係争国当事者の観点と第三国者的な観点等に分け、担当ごとにその問題について考える。
  - ・ グループ学習の内容を、プレゼンテーションできるようまとめる。
- 3 地域紛争について発表し、聞き合う。(発表会)
  - ・ グループごとに発表し、他のグループの考えを聞き、様々な紛争について自分の考えをまとめる。
  - ・ 学習シートを活用し、学習全般を振り返る。

#### ポイント

- 世界の問題への興味・関心を高めるための教師の働きかけが大切です。

#### ポイント

- 現在の国際社会に果たす役割だけでなく二次的な問題等、次世代のことも考えさせることが大切です。

### 夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・ 平和な国際社会の持続などについて、自分ができる役割を認識させるため、地域紛争や紛争がもたらす二次的な問題についても考え、意見をまとめる活動の場を設定する。

単元名 第一次世界大戦・パリ講和会議  
新渡戸稲造と国際連盟

第2学年  
地理歴史科 日本史B

〈単元のねらい〉

○第一次世界大戦後の国際協調の進展の中で、日本がどのように対応し、国際社会における立場を変化させていったかについて、国際連盟設立と日本の立場を通して考察する。

志教育の視点

- ・国際社会で主体的に生きる日本人としての生き方を通して、自らの在り方、生き方を探究させる。

〈単元の流れ〉

- 1 国際連盟設立の趣旨と役割について知る。
  - ・設立までの経緯とその理念について理解する。
  - ・連盟の国際紛争解決の手段について調べる。
  - ・連盟の果たした役割や当時の国際社会における連盟の課題と限界についてまとめる。
- 2 国際連盟と日本の立場について知る。
  - ・連盟常任理事国4カ国の状況を理解する。
- 3 新渡戸稲造の生き方について学ぶ。
  - ・札幌農学校時代
    - ※クラークの教え“Be gentleman!”“Boys, be ambitious!”や内村鑑三との出会いなどについて調べる。
  - ・渡米後の生活
    - ※著書「武士道」について調べ、新渡戸が国際社会の中で、日本の精神文化について考えを深めたことを理解する。
  - ・国際連盟事務次長としての活躍
    - ※日本の立場を理解した上で、国際連盟事務次長として新渡戸稲造が就任したことの意義と業績について考える。
  - ・新渡戸稲造の生涯を通し、自己の生き方について考える。

ポイント

- 時代背景を理解させることが、新渡戸の生き方について考えさせる上で大切です。

ポイント

- 新渡戸稲造が、生涯にわたって国際社会の中で活躍した基本には、特に札幌農学校で培った「我れ、太平洋の架け橋とならん」との信念に基づくものであることを理解させ、「志」をもつことの重要性を考えさせる。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・自己を振り返り、社会の中でより価値の高い生き方について考えさせるため、平和な国際社会の構築に貢献した新渡戸稲造の生き方に焦点を当てた学びの手法を工夫する。

## 単元名

インターンシップ・上級学校訪問

## 第2学年

総合的な学習の時間

## 〈単元のねらい〉

○自分の進路希望に応じて、上級学校の訪問や希望業種でのインターンシップを通し、進路先についての理解を深めるとともに、自分の能力や適性を見つめ、将来の進路選択について考える。

## 志教育の視点

- ・上級学校訪問やインターンシップ体験を通して、将来の職業や生き方について考えさせる。

## 〈単元の流れ〉

## 1 訪問・体験活動のガイダンス

○訪問や体験活動の心構えや方法について理解する。

〈大学や専門学校などの進学を希望している生徒〉

- ・関心ある学部・学科・コース・専攻まで十分検討して、2校以上訪問し、比較・判断の材料として様々な情報や資料を収集する。

(訪問にあたっては、「オープンキャンパス」、「学校見学会」などの日程を確認して参加する。)

〈就職を希望している生徒〉

- ・希望の企業や職種に応じて受け入れ先と相談の上、実施日等の詳細について決定する。

## 2 報告会の開催

- ・上級学校訪問やインターンシップの実施内容と成果について生徒一人一人がまとめ、学級ごとにプレゼンテーションをする。
- ・学年全体会（「報告会」）では、学級の代表が発表し、進路選択について参考にする。

## ポイント

- 将来の職業について具体的に考えさせ、質問項目を練り上げた上で、訪問させることが大切です。

## ポイント

- 訪問・体験活動を通し、自己の適性について理解を深めさせることや訪問・体験先で適切なコミュニケーションができるよう指導することが大切です。

## 夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・自己の適性を見つめさせるとともに将来の職業について考えさせるため、上級学校訪問やインターンシップ体験に取り組ませる。



単元名

生活設計

第2学年

家庭科 家庭総合

### 〈本時のねらい〉

- 高校生は青年期に入り、自立に向けて活動する時期であることを理解するとともに「生活設計」の立案を通して、自己の生き方や将来の家庭生活と職業生活の在り方について考える。

### 志教育の視点

- ・生活設計案の作成を通して、人としての在り方生き方の探求を促す。

### 〈学習の流れ〉

#### 1 学習課題をつかむ。

- ・現在の自分を振り返り、「自立」についての考えをもつ。  
(生活的、経済的、精神的、社会的など)
- ・これからの人生の生活設計において、それぞれのライフステージで課題があることを確認し、自分自身で取り組むことが必要な課題を認識する。

#### ポイント

- 自分を振り返らせ、現在の自分を客観的に見つめさせ、自己理解を促すことが大切です。

#### 2 「生活設計」の内容と方法について考える。

- ・生活設計を立案する際、どのステージでも5つの段階があることを踏まえて立案する。  
(5段階：準備、計画立案、実施、反省・評価、フィードバック)
- ・目標の設定を試みる。  
(短期生活設計 20歳まで、大学卒業まで)  
(中期生活設計 30歳まで)  
(長期生活設計 子どもが成人するまで、自分の老後まで)

#### ポイント

- 単なるライフイベントの羅列にならないように、観点を示しながら指導することが大切です。

#### ※考えるポイント

○ライフイベント〔子どもの誕生、入学、進学、就職、結婚など〕やファミリーサイクル〔新婚期、育児期、教育期、老年期など家族を単位とした周期変化〕に応じて目標の調整が必要な場合もあることを踏まえさせる。

#### ポイント

- 自己の生き方や将来の生活について具体的に考えさせることが大切です。

#### 3 「生活設計」を立案する。

- ・家族、友人、健康、金銭、もの、空間、技術などが生活する上で重要な生活資源であることを理解し、どのように活用したらよいか考える。
- ・実際に生活設計案を作成する。

### 夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・将来への目標や展望をもち、生活課題を踏まえた上で、自分らしい生き方を考えさせるため、生活設計案を作成する活動に取り組みさせる。

単元名

学校祭への取組

第2学年

特別活動（ホームルーム活動）

か  
か  
わ  
る

### 〈活動のねらい〉

○学校祭での、学級の催しについての企画、立案、役割分担等の話し合いを通して、互いの意見を尊重したり、役割を理解し協力するとともに、地域の人々と連携することの大切さを理解する。

### 志教育の視点

- ・学校祭への取組を通して、自分の果たすべき役割を認識し、組織の中で協力したり協調しようとする意欲を高める。
- ・地域の人々と適切なコミュニケーションを図ろうとする気持ちをはぐくむ。

は  
た  
す

### 〈活動の流れ〉

- 1 各学級において学校祭（地域公開）の意義を理解し、学校祭の全校統一テーマを話し合う。
- 2 生徒総会でテーマを決定し、学校祭の意義、基本方針を共有する。
- 3 生徒総会の決定事項を踏まえ、各学級において参加形態・内容を検討する。
  - ・催しの内容を安全最優先の視点から検討する。
  - ・地域の協力を得ながら全員が参加し、達成感を味わえる催しを考える。
  - ・生徒会予算から各学級に与えられた予算を生かす工夫をする。
- 4 全員が一致協力して、安全に配慮しながら学校祭を実施する。
  - ・相互の役割を認識しつつ、自分の役割に責任をもって成し遂げる。
  - ・地域の方々に対しては、十分配慮した行動・言動を心がけさせるとともに、地域の人たちとの触れ合いのよさを味わわせる。
  - ・生徒会関係組織と連携をとりながら協力して運営させる。
- 5 反省会を実施し、相互の連帯感の深まりを認識させるとともに、次年度へ向けた改善点を考える。

#### ポイント

- 学校祭の公開により、学校と地域のつながりを意識させることが大切です。

#### ポイント

- 地域の方々とのかわりや生徒会組織を通じた取組の中で、自分の役割を理解させ、集団の中で協力して取り組ませることが大切です。

### 夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・集団の中で果たすべき役割を理解させ、コミュニケーションを図ろうとする気持ちをはぐくむために、活動の機会や場の設定を行う。

5

## 特別支援学校の参考事例

※特別支援学校では、個別の教育支援計画等とのかかわりから年間指導計画例は示していません。

※特別支援学級の参考事例としても活用できます。

単元名

学校祭で出店を開こう

小学部全学年

生活単元学習

か  
か  
わ  
る

## 〈単元のねらい〉

- 学校祭で出店する活動を通して、生活経験を広げたり、望ましい生活習慣を身に付けたりするとともに、自分の役割を果たす態度を身に付ける。
- 友達や教師、地域の人たちとかかわりながら楽しく活動する。

## 志教育の視点

- ・友達と協力する中で、互いのよさを認め合い、励まし合う気持ちを育てる。
- ・人のために役立つ喜びを体験させることで、自分の責任や役割を果たすことの喜びを味わわせる。

は  
た  
す

## 〈単元の流れ〉

## 第1次 「がっこうさいをしよう」

- 昨年度の学校祭の様子を振り返る。
- 学校祭の日程や当日までの学習の流れを知る。

## 第2次 「がっこうさいのじゅんびをしよう」

- 学校祭に向けた準備をする。
- 出店でのお客さんとのやりとりを練習する。

## 第3次 「みなさんにおしらせをしましょう」

- 学校祭への招待状やポスターをつくる。
- 招待状を配るなどの広報活動をする。
- 会場の飾り付けや出店の準備をする。

## 第4次 「さあ、おまつりだよ」

- お客さんや友達とかかわりながら、お祭りを楽しむ。
- 自分の係の仕事をしっかりと行う。

## 第5次 「おまつりをふりかえろう」

- 学校祭を振り返り、がんばったことやよかったことを振り返る。

## ポイント

- 学校祭という楽しいお祭りがあることやたくさんの人が来校し、かかわることについて、前年度の写真やビデオをもとに事前指導することが大切です。

## ポイント

- 出店の準備や本番では係分担に従って、自分の役割や責任を果たすよう、何を、どのくらい、いつまでなど、明確に理解させることが大切です。

## 夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・人のために役立つ喜びを味わわせるために、学校祭で出店する活動を設定する。

## 単元名

## 収穫祭でピザ店を開こう

## 中学部第3学年

## 生活単元学習

かわる

## 〈単元のねらい〉

- 先輩の働く職場を訪問した際に教えてもらったピザづくりを思い出しながら、安全と衛生に気を付け、友達と協力してピザ調理に取り組む。

## 志教育の視点

- ・先輩の働いている現場を見学し、多くの人が仕事を分担し、協力して働いていることに気付かせる。
- ・ピザ店を開く活動を通して、自分の役割や責任を果たす喜びを味わわせる。

はたす

## 〈単元の流れ〉

## 第1次 「先輩の職場を見学しよう」

- 先輩の働く授産施設を訪問し、ピザの作り方や接客態度等、働く上で大切なことについてインタビューをする。

## ポイント

- 働く姿を見る観点やインタビューでの質問事項を明確に示すことが大切です。

## 第2次 「夏野菜を使ってピザとジュースを作ろう」

- 米粉でピザ生地を練り上げ、学校の畑で育てた野菜を使用し、ピザを焼き上げる。
- しそとトマトを使ったジュースも作る。

## ポイント

- 自分の役割を自覚させるための指導法を工夫しましょう。

## 第3次 「ピザ店の開店準備をしよう」

- ピザ店の開店に向けた役割分担について話し合い、収穫祭当日に向けた開店準備や接客等の練習を行う。

## ポイント

- 役立つ喜びを味わわせるために、できたことを認め、励ます教師の声かけが大切です。

## 第4次 「収穫祭を開こう」

- 3年生がピザ店の開店に向けて取り組んできた野菜の栽培や職場訪問、調理実習、店の装飾等の活動内容について、ポスター発表を行う。
- 3年生が担当するピザ店を開店し、楽しく会食する。

## 夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・仲間と協力して働くことの喜びや人の役に立つ喜びを味わわせるために、ピザ店を開く活動を設定する。

## 単元名

卒業後の生活を考えよう

## 高等部第2学年

生活単元学習(進路の学習)

か  
か  
わ  
るも  
と  
め  
るは  
た  
す

## 〈単元のねらい〉

○グループホームや就業・生活支援センターを見学し、家庭・地域の生活について考える。

## 志教育の視点

- ・先輩の働く職場を見学することにより、職場で果たす役割の大切さに気付かせる。
- ・先輩の体験談を聞くことを通して、家庭生活の様子、地域の人々とのかかわり、自治会の中で果たすべき役割について気付かせ、生活の自立や社会参加への意識を高める。

## 〈単元の流れ〉

## 第1次 「先輩が働く職場訪問」

○先輩が働く会社を訪問し、仕事の分担とその責任、会社で守らなければならない基本的なきまりについて先輩や会社の方に聞き、働くことの意義について考える。

## ポイント

- 作業の仕方を観察する観点や話を聞く観点を明確にし、仕事をしている人たちが自分の役割を果たしていることに気付かせるような働きかけが大切です。

## 第2次 「ハローワーク訪問」

○ハローワークを訪問して、その役割や就職時の手続きについて調べる。

## 第3次 「就業・生活支援センター訪問」

○グループホームや就業・生活支援センターを訪問し、グループホームの生活や就業・生活支援センターの働きや自分が活用できる生活支援サービスについて調べ、ワークシートにまとめる。

## ポイント

- グループホームの利用にあたり、利用している人との適切な関係を築くことができよう具体的な指導をすることが大切です。

## 第4次 「卒業後の生活発表会」

○高等部卒業後の生活について、先輩の体験談を参考にしながら、職場訪問、ハローワーク訪問、就業・生活支援センター訪問で学んだことを「日中の生活(働く生活)」、「家庭・地域の生活」、「余暇の過ごし方」の3領域にまとめ、ポスターセッション、パワーポイントなどで発表する。

※就業・生活支援センター等関係機関担当者を招待する。

## 夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・役割の大切さに気付かせ、生活の自立や社会参加への意識を高めるため、職場見学やグループホーム訪問、各支援機関等の利用体験活動を設定する。



## みやぎの志教育推進 授業や活動のヒント集1

発 行 平成 23 年 5 月

編集発行 宮城県教育委員会

住 所 仙台市青葉区本町 3-8-1

電 話 0 2 2 - 2 1 1 - 3 6 4 6

